

群馬大学広報誌 [グッデイ]

GU'DAY

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENT NEWS

09

2021 Winter



課外活動『輝く群大生』特集号

コロナ時代の キャンパスライフ

『とある桐生の放送室』メインパーソナリティ 岡崎美帆さん / 上野真琴さん
Voice Cream "ho-op" ボーカル 共同教育学部卒業生 新井和佳奈さん
群馬大学映画部【MEMENTO】熊谷宏彰さん / 福井健一郎さん



2021 Winter GU'DAY

課外活動『輝く群大生』特集号：コロナ時代のキャンパスライフ

学生広報大使とは

2017年4月に結成された群馬大学の在学生による広報チームです。

広報活動を通して、群馬大学を学内外に広くPRしています。

学生広報大使広報誌編集チームのメンバーが群馬大学広報誌「GU'DAY」の記事を作成しています。

群馬大学学生広報大使について

<https://www.gunma-u.ac.jp/studentlife/g29322>

群馬大学学生広報大使 Twitter

https://twitter.com/gundai_sa

群馬大学学生広報大使 Instagram

https://www.instagram.com/gundai_sa/

contents

- P3 課外活動『輝く群大生』①
学生広報大使群大情報発信系ラジオ『とある桐生の放送室』
- P7 課外活動『輝く群大生』②
voice cream"ho-op"ボーカル
共同教育学部卒業生 新井和佳奈さんインタビュー
- P11 課外活動『輝く群大生』③
映画部 オムニバス形式の映画制作
- P19 キャンパス紹介 養心寮
- P24 新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援について
- P27 研究紹介 理工学府知能機械創製部門 鈴木 孝明 教授
- P31 群大最新ニュース
- P33 群馬大学基金について

輝く 群大生

課外活動で活躍する群大生をご紹介

輝く群大生①

『とある桐生の放送室』パーソナリティ
岡崎美帆さん 上野真琴さん



『とある桐生の放送室』とは？

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、以前のように自由に大学に行くことができなかった2020年。『とある桐生の放送室』とは、そんな状況の中で放送された、理工学部に入学したばかりの新1年生、進級したばかりで桐生キャンパスのことを知らない新2年生向けの情報発信を目的とした、学生主体の群大情報発信系ラジオである。(愛称『とあ桐』)

学生広報大使でもあり、GFL*でもある岡崎美帆さん(理工学部総合理工学科4年)と上野真琴さん(理工学部化学・生物化学科3年)の2人が有志でパーソナリティを務めた。

【Profile】



岡崎 美帆さん

理工学部総合理工学科4年生。学生広報大使、GFLの一員。サークルは合気道部に所属。趣味はドライブで、気晴らしに運転して最長7時間運転したこともある。群馬大学の大学院に進学予定。



上野 真琴さん

理工学部化学・生物化学科3年。学生広報大使、GFLの一員。サークルは合気道部に所属。GFLとして早期研究室配属、早期卒業により来年度から群馬大学の大学院に進学予定。多趣味で私生活ではアニメを見ることに時間を割いている。

*GFL(Global Frontier Leader)とは：グローバル人材育成の一環として設置されたプログラム。幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の修得を中心とした教育を実施している。
<https://gfl.jimu.gunma-u.ac.jp/report>

『とある桐生の放送室』について

- 初回放送は2020年5月29日
- 毎週金曜日21:00~22:00放送
- Zoom上で全13回、約5ヶ月間放送
- パーソナリティのおすすめ回は第6回(テスト対策回)
- バックナンバーはこちら！



このコーナーの取材を担当した 学生広報大使

理工学部化学・生物化学科

間 叡萌さん

[千葉県出身]



このコーナーの取材の撮影を担当した 学生広報大使

桐生写真部

理工学部電子情報理工学科

大澤 郁弥さん

[群馬県出身]



『とあ桐』 結成秘話

問：『とあ桐』を始めた経緯を教えてください。

上野：5月の初めに「新生サポーター」という、Zoomを使った新生向けのオンラインサポート活動に参加していたのですが、多くの新生が参加してくれたのにも関わらず、質問はあまり来ませんでした。そのため、「何を質問したらいいかわからないけど一応聴いておこう」と思っている新生が多いのかもしれないと思いました。また、「これは上級生が一方的に情報発信しているだけだ」ということに気づき、「それならばっそラジオ形式にしたらいいいのでは？」と思いつきました。そこからすぐに岡崎さんに「新生生に向けたラジオをやりませんか？」とLINEを入れたところから『とあ桐』が始まりました。

岡崎：真琴ちゃんから連絡を受けて、「めっちゃいいな」と思いましたね。コロナウイルス感染拡大の影響でキャンパスに原則立ち入り禁止になり、今までやっていた広報大使や部活などの課外活動ができなくなってしまい、今のうちに何かやりたいという考えを持っていたので。すぐに「それいいね」と返事をしました。その後、真琴ちゃんとLINEで話す度に「ラジオのことなんだけど…」とラジオの話題が出て、そのままやることになりました。こういう思いつきみたいな話は、時の経過と共にうやむやになることが多いと思うのですが、『とあ桐』の案はそうはならず、実施できましたね。

上野：当初は6月から大学に登校できるかもしれないという話もあったので、余計に「やるなら今(5月)しかない」「5月中旬に1回はやりたい」と思い、すぐに準備に取り掛かりました。そして初回の放送(第1回(2020年5月29日放送))、(第10回(2020年7月31日放送))をした形になりました。

岡崎：懐かしいな～。

上野：懐かしいですね。結局6月になっても学校が始まらず、前期の講義が全てオンラインになったので「これは、前期中も放送できるのでは？」という話になりました。

岡崎：結局7月末のテスト週間に入る前まで放送しましたね(第10回(2020年7月31日放送)までのこと)。7月からは研究室に行けるようになりましたが^{*}、かなり忙しくなりましたね。私は大学院の先取りの講義があったし、真琴ちゃんは3年生の講義があったので、お互い研究と講義、課題、そして『とあ桐』の準備に追われていました。

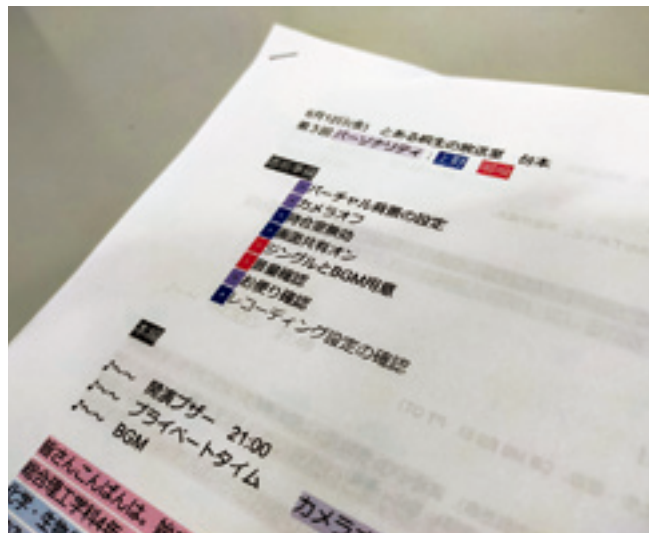
上野：忙しかったですね。正直、やばかったです。

岡崎：真琴ちゃんはテストもあったしね。第10回と区切りもよかったので、前期の終わりで『とあ桐』の定期放送はやめました。

*二人の研究室所属について：岡崎さんは4年生のため研究室での研究がメインの生活。上野さんはGFLの早期研究室配属により3年生だが既に研究室で研究を行っていた。

『とあ桐』の名前の由来

問：『とある桐生の放送室』という名前の由来は何ですか？



上野：それは名付け親の岡崎さんからお願いします。何かアニメっぽい名前が良い、みたいな話でしたっけ？

岡崎：そうそう。タイトルをつける時に、どんな名前がいいか考えたのですが、聞き覚えのあるフレーズが良くて。(上野さんの方を向いて)いくつか名前の案をLINEしたよね？

上野：してましたね。(LINEの履歴を遡りながら)「この名前はどうか？」みたいなことをずっと話していました。

岡崎：なかなかしっくりくる名前が思いつかなかったから、本当にずっと決まらなかったね。

(2人ともLINEの履歴を遡る)

上野：あ、ありました。「放送室」ってワードが入っている案や、「群大生が話すだけのラジオ」という名前の候補が出ていましたね。

岡崎：あ～、あったね。途中で「放送室」っていうワードが入っている名前がいいなと思った。

上野：「略して「群ラジ」でもいいね」という会話も残っています。でもそれに対して岡崎さんは「どこかに怒られそう」と(笑)

岡崎：最初は「〇〇ラジオ」という名前が候補に挙がっていたのだけど。

上野：(放送時間帯の)夜の、とつけると危ない感じがするから。

岡崎：そうそう(笑)。ラジオをしているのが伝わる言葉で、「夜」や「群大」という言葉が入ってなくて、どこかで聞いたような印象に残りやすい名前を探したところ、最後に「放送室」っていうワードがつくものもいいね、となりました。

上野：その前に「桐生のとある放送室」という候補もあったんですけどよね。

岡崎：そこから「とある魔術の禁書目録」というアニメの名前を思い出し、「その響きであれば、どこかで聞いたことあるような印象を与えることができるのでは？」となり、「とある桐生の」という名前をつけました。それとは別に『とあ桐』という愛称は早い段階で候補に挙がっていましたね。呼びやすい名前がいいだろうという考えから『とある桐生の放送室』、略して『とあ桐』ということになりました。

—— 今後の『とあ桐』について

問：7月末の第10回で『とあ桐』の定期放送は終了したということですが、7月末以降も数回に渡って不定期放送をされていましたよね。今後の形としてはどのようになるのでしょうか？

岡崎：不定期放送は夏の特別回として、8月に1回、9月に2回の合計3回、そして10月に1回行いましたね。10月に放送した第13回をもって、正式に『とあ桐』を終わりにしました。

問：今後再開することは無いのでしょうか？

岡崎：今のところ未定なんですよね。

上野：2人とも卒論で忙しいから……。

岡崎：そう。卒論が(笑)。卒論が終わってからか、新入生が入るタイミングでまたやりたいなとは思いますが。

上野：前は『とあ桐』のための時間を取ることができたので、資料作成などの凝ったことができたのですが、今はそれができないのでやめています。復活するときは、裏方をやりたい人を仲間に入れて放送するのもありですね。2人だと気心が知れている上に、少人数だからスピード感があったのは良かったですけどね。

岡崎：確かに。2人だけでやっていたから大変でしたね。『とあ桐』活動中から、「誰か裏方を入れるか」といった話や、「ゲストを呼びたいよね」という話はしていたのですが、結局ゲストとして呼べたのは特別回の最初と最後の2回だけだったので、まだまだやりたいことは溜まっています。でも現状だと自分たちの理想を超えないと思うので、一度やめて来年パワーアップしようと思います。

上野：春にまた時間に余裕が取れたらって感じですね。

岡崎：「きっと(今年の放送を聞いていた)皆さんは学校には慣れたでしょう」と言って、復活したいですね(笑)

問：またお二人の放送を聴けるのを楽しみにしていますね。

—— 『とあ桐』をやって得られたこと

問：全16回に渡る『とあ桐』の放送の中で、特にリスナーからの反響が大きかった回や記憶に残った回、大変だった回

はありますか？印象に残ったことを教えてください。

岡崎：どの回だったか忘れたのですが、30人視聴してくれた回があったんです。凄い嬉しかったです。

上野：その回は(Zoomの)チャットにコメントを寄せてくれたリスナーがいたのも嬉しかったですね。あと一番うれしかったのは、HPのお便りフォームに感想などを書いてくれる人がいたことですね。

岡崎：「いつも聴いています」みたいな感想、嬉しかったよね。手ごたえを感じました。

上野：個人的に印象に残っているのは七夕企画の時ですかね。七夕企画では、リスナーから願いごとを募集して、その願い事を短冊に書いた動画を作ったのですが、「大学に早くいきたい」という内容の願い事があって、胸が締め付けられる思いがしましたね。

岡崎：あとは、Zoomで配信をしていたので、リスナーの数を見ることができたのですが、後期に入ってテスト2、3週間前からだんだんリスナーが減っていたのが難しかったですね。ちょうどその頃からバックナンバーをHPに載せはじめたので、リスナーに「別に今すぐに聴かなくてもいいか」と思われているのではないかと考えてしまいました。

上野：リスナーが減った時の巻き返し方はわからなかったですね。運営の難しさを痛感しました。

岡崎：同時に宣伝の難しさも知りましたね。

上野：デバイスとZoomとの相性にも悩みましたね。YouTubeの方がよかったのかもしれないと思いましたし、Zoomでどのようにリスナーを増やせるかについて考えました。とはいえ、むやみやたらにZoomのURLをTwitterに流して、荒らしのような人が入ってこられても困りますし……。

岡崎：そうそう。私たちがただ話しているのを垂れ流しにするのも気が引けました。個人の意見を中心としたラジオなので、大学に変な影響が出ないように気を付けましたね。私も真琴ちゃんも保守派なので、変なことに巻き込まれないように、ということを第一に考えて動いていた気がします。

上野：そうですね。だからあまり過激なこと……例えば「こういうことをやれば楽だよ」のような裏道的な話は、リス





ナーから質問が届いても答えないようにしていました。

岡崎：上手い返し方に悩んだね。

上野：だからこそ、本当の意味でリスナーに寄り添えた放送だったかどうかについては自信がありません。SNSでつながって、DM等でやり取りをしていた方が距離が近かった気がします。

岡崎：SNSでも、自分の名前がばっちり出て、個人がわかるアカウントで連絡くれる人は少なかったです。『とあ桐』の活動前から個人のTwitterアカウントで質問箱を用意して、新入生向けに情報発信もしていましたし、『とあ桐』の放送を始めた後は、『とあ桐』名義のTwitterアカウントでも宣伝をしたりしていたのですが、投票型のツイートには反応があっても、それ以外のツイートにはあまり反応がなかったのです。こちらからDMを送ってみたりもしましたが、やはり新入生の近くに寄り添うのは難しかったです。

間：個人的には、ツイキャスやYouTubeの方が、聴く人の匿名性が上がるので、『とあ桐』でZoomを用いたのは意外でした。

岡崎：そうですね。最初そのような配信方法も考えたのですが、Zoomであれば講義でも使われているツールのため、自分たちもリスナーも慣れている上に群馬大のみに限定公開することもできると思い、Zoomを利用しました。ラジオではあるものの、顔が見えるし、共有できるのもよかったです。

—— 2人から見た群馬大学について

間：お二人とも群馬大学の大学院に進学されるとのことですが、お二人が思う群馬大学のいいところ、改善してほしいところはどこですか？

上野：良いところは、意外と周りの先生や、事務の方など大人の人に熱い人が多いところですかね。入学後に手厚いサポートを受けたことで、やる気があれば、やりたいことがやれる環境にいることに気付きました。自主的にやりたいことがある人にとっては、群馬大学は後から伸ばしてくれる素敵

な環境だと思います。群大生の中にも熱い人がいますしね。

岡崎：確かにサポートが手厚いですね。気にかけてくれる大人がいる環境だと思います。事務の方も優しい人が多く、課外活動をする中でとても優しくしてくれました。改善してほしいところ……。強いて言うなら、交通アクセスがあまり良くないことですかね。あとはキャンパス間の連携も薄い気がします。内輪同士は連携が取れているのに、キャンパスが変わるとその連携が薄くなる印象があります。あとは、自分から動かないと、周りの手厚いサポートに気付きにくい環境ではあるかもしれません。

—— リスナーの皆さんへ

間：最後に『とあ桐』のリスナーさんへメッセージをお願いします。

岡崎：まずは何よりもリスナーさんや、お便りをくれた方に感謝です。そんな皆さんのお陰で続けてこられました。ありがとうございます。

上野：Zoomに寄せられたコメントが優しくて嬉しかったです。本当にありがとうございました。あとは、こんな時代だけど悔いなく過ごしてほしいです。自分でもできているかは分かりませんが、「できなかった」と言うのは簡単だけど、「逆に今だから」をやるべきだと思います。

岡崎：新入生に注意するならば、SNSの使い方に気を付けてほしいなと思います。SNSは上手く使えば情報発信ツールになりますが、授業や課題の内容をツイートして、誰かに見られている感覚が無い人を見かけました。自分が気を付けている分、授業中にツイートしている人を見るとひやひやします。

上野：群大の先生の中にも在学生のSNSを見ている人はいますもんね。オンライン中心になった今だからこそ、もっと気を付けるべきですね。

輝く 群大生

課外活動で活躍する群大生をご紹介

輝く群大生②

アカペラサークルVoice Cream “ho-op” ボーカル

教育学部音楽専攻卒業生 **新井和佳奈** さん



"ho-op" とは？

群馬大学アカペラサークル Voice Cream 内で結成されたバンド。昨年の第8回 A cappella Spirits 決勝全国大会で群馬勢初の日本一を獲得した。“ho-op” ボーカルの新井さんは卒業後プロのシンガーを目指し、音楽活動が続けている。

主な受賞歴

Japan Accapela Movement ベストヴォーカル賞 (2019)
伊達な街四丁目アカペラストリート 最優秀賞 Best Of DATEACA (2019) ※
第8回 A Cappella Spirits 全国大会優勝 (2020) ※
※アカペラバンド"ho-op"として

第8回 A Cappella Spirits ライブ



Mr.Children 『Tomorrow never knows』

【Profile】



新井 和佳奈さん

5歳からピアノを始める。小学生より合唱団、中学生で合唱部に所属し全国コンクール出場に向けて日々没頭。MISIA、Superflyなど力強い歌声のシンガーに影響を受ける。群馬大学教育学部音楽専攻に進学し、声楽を専攻。アカペラサークル『Voice Cream』に所属する。卒業後プロのシンガーを目指し、活動をスタート。

このコーナーの取材を担当した学生広報大使

教育学部教育専攻 3年
島田 咲羽さん
〔埼玉県星野高校出身〕



—— アカペラに出会ったきっかけを教えてください。

サークル活動として楽しそうだと思って。ずっとクラシック音楽をやっている、ポップス音楽とは無縁だったので、大学でやってみたいと思いました。ジャズシンガーとして活動している憧れの先輩がVoice Creamに入っていたので、憧れもありました。

—— アカペラバンド“ho-op”での活動で一番印象に残っていることは何ですか？

最後の大会で優勝したときの景色ですね。駆け出しで歌手活動をしているだけでは立てないような、2000人位観客がいるライブハウスで歌ったので。最後の大会は4年間の集大成だったので、「優勝して嬉しい」という感動よりも「ああ、やっとできたんだ」という達成感が大きく、肩の荷が降りた感じがしました。「優勝したい」というプレッシャーをずっと感じていたので、「優勝してラッキー」という気持ちではなく、「優勝できて一安心」という感じでした。涙が出るというよりは、グッと噛みしめるような感じでしたね。

—— どのようなところにクラシックとポップスの両立の難しさを感じていましたか？

大学の先生にも大学以外の先生にも「ポップスはやめた方がいい」と言われ続けていて。やっと体の使い方などの大まかなところは一緒だって気付き始めたんですけど、細かく見ていくとポップスとクラシックでは全然違うので。ポップスをやるとクラシックの技術が戻ってしまうし、クラシックをやるとポップスの技術が戻ってしまう。クラシックをやるとポップスに大きな支障が出たことはないですけど、逆はあったので、

少し葛藤がありました。人に「やめろ」って言われたらやめたくなくなるっていうか。だからこそ、ポップスをやったことがクラシックに悪い影響を与えないようにするために、「クラシックはクラシックでやるぞ」という気持ちで活動していました。アカペラの活動が軌道に乗って、大学3年生の終わりに大会に出させてもらえるようになってからは「アカペラもやめられないぞ」という気持ちでいました。もしアカペラがフェードアウトしていたら、3・4年生で教育実習が始まって、将来もクラシックをやろうってなっていたかもしれないんですけど。大学3年生の冬が転機でしたね。

—— クラシックとポップス音楽の共通点は何ですか？

クラシックとポップスの共通点は表現力ですかね。大まかにいうと、全身を使って表現するところが同じだと思います。クラシックをやっていたからこそ、ポップスの時も足の先から頭の先まで全部を意識して歌うようになったと思います。あとはクラシックをやっていたおかげで色々な知識をメンバーに共有することができたので、私自身も勉強になりました。よく私のグループは、オーケストラの弦楽器のような感じで、クラシックっぽって言われるんです。実際に、吹奏楽というよりは、オーケストラの響きや流れを意識していました。大学でちょっとだけバイオリンもやっていたので、それも活かされました。

—— コラボのよさは何ですか？

YouTubeに上げた動画でコラボした方は、自分にないところをたくさん持っているので、コラボした時にたくさん気付きがあるところですね。相手のシンガーにもファンがいらっしゃるので、お互いのファンに知ってもらえるというところもいいところですよ。



今までやってきたコラボは、ほとんどリモートだったんですね。リモートでコラボするとなると、二人同時には歌えないんです。リモートでのコラボは、どちらかが先に音源を送って、その音源を聴きながら歌うんです。どちらかの音楽性にもう一方が被せる形なので、リモートでのコラボのほうが逆に楽なんです。だけど、生で5人一緒に歌うアカペラの環境にいたので、リモートでのコラボでは物足りなさも感じてしまうんです。なので、私の憧れている小和瀬さとみさん（理工学部OG）というジャズシンガーと初めて対面で一緒に歌ったコラボはものすごく楽しくて。生のコラボで一緒に歌っていると、「どう歌うの?」、「ここどうするの?」っていうように、お互い試行錯誤してその場の雰囲気曲をつくっていくので、「やっぱり音楽っていいな」、「人と歌うと楽しいな」って思いました。一刻も早く生で歌いたいと思っています。

—— 歌うときに意識していることはありますか？

細かいことを挙げようとしたらたくさんありますが、曲の流れかな。リモートで歌う時も、息の流れとかフレーズの作り方や、歌詞をより綺麗に丁寧に伝えることを意識しています。

—— 和佳奈さんの歌う姿は笑顔が印象的ですが、これも意識されているのでしょうか？

常に笑っているので意識していません(笑)。音楽活動が楽しいからですかね。アカペラをやるようになってから見栄えも気にするようになったかもしれません。アカペラでは歌っている表情も重要なポイントなので、身振り手振りとかも含めた見せ方を意識するようにはなりました。楽しい曲を歌っている時に本人が楽しそうに歌っていないと、見ている側からすると矛盾が生じるんですよ。

—— 歌をカバーされる際にオリジナル曲の解釈は取り入れていますか？

取り入れるときもあるし、オリジナルを聴かないときもあります。一から曲の解釈を考えるとときもあるけれど、カ



バーする前にオリジナル曲を聴いた時に「いいな」、「歌いたいな」って思っているからカバーしているので、少なからず影響は受けていると思います。だけど、なるべく自分で考えるようにはしています。

—— プロのシンガーを目指したきっかけは何ですか？

全国大会で優勝してからですね。アカペラの知り合いから音楽関係に進む人が結構いたので、優勝後はよりプロの道を身近に感じるようになったというか。大会前は大会のことしか考えていませんでした。大会と同時期に声楽のコンクールがあったこともあって、日々音楽に精一杯で進路のことは全く考えられなかった。怒涛の半年でした。アカペラをやって、人前で歌を歌う素晴らしさに気付いたというか。少なからず歌を歌い続けてほしいって言ってくれる人もいたので。

—— 今まで歌った歌で一番思い入れのある曲は何ですか？

Mr.Childrenの『Tomorrow never knows』かな。大学3年生の頃まで編曲を自分達でやっていたんですけど、これじゃダメだと思って大学4年生のときに初めてプロの方をお願いしたのがこの曲だったんです。それでこの曲を歌った動画がバズって、私たちは一気に飛躍をしたので、この曲のおかげだと思っています。あとはMr.Childrenが大好きなので。今でもずっとMr.Childrenの曲を聴いているし、私が音楽を好きな理由もMr.Childrenだから、聴くと元気もらえます。Mr.Childrenがテレビに出ていると、正座をして聴いちゃいます。私にとって神様みたいな存在です。

—— 群馬大学の学生に一言お願いします。

とにかく殻を破って、色々やってほしい。このキャンパスに通うことだけが全てだと、4年間でそれだけで終わってしまうから、新しいことにチャレンジしてほしいと思います。アカペラをやっていると全国各地に友達ができるんですよ。だ



からそういう意味では、大学内にいるだけでは狭いと感じてしまっ。後半の2年間で色々な刺激を受けました。今のメンバーに出会えたのはとても幸せなことだと思います。大会に出ているグループの中で、1年生のときから友達同士で組んでいる団体はあまりないですよ。大会に出る目的のために組む人たちも多いんです。私たちのグループはポテンシャルも高くないのに、地元から活動を始めて、仲のよさだけで優勝まで行ったので、自信にもなりました。最初はみんな初めましてでしたから。

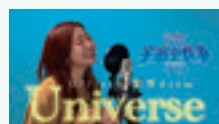
——— 今後の活動における目標を教えてください。

本当は紅白歌合戦に出たいってずっと言っていたんです。けど現実的に考えると、少しずつでもいいから着実に新規ファンを増やしていくことです。色々なライブをするようになって、生計も立てながらSNS活動も続けていきたいと思っています。あとは自分で作っているオリジナル曲を聴いてもらえる機会を増やしていきたいです。



最近投稿した動画はこちら！

Official髭男dism『Universe』



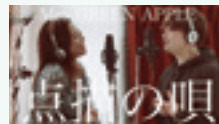
Official髭男dismの新作『Universe』を原曲の雰囲気とは少し変え、ピアノ伴奏でしっかりと歌いました。映画「ドラえもん のび太の宇宙小戦争」の主題歌にもなっております。
<https://www.youtube.com/watch?v=EjsDnfaRogE>

Official髭男dism『Laughter』



以前から歌いたくて密かに練習していた『Laughter』を歌わせて頂きました。普段の動画とは異なり、こちらはスタジオで録音して頂き、サウンドに厚みがあって素晴らしいです。とても気持ちよく歌ったので、是非聴いて頂きたいです。
<https://www.youtube.com/watch?v=eOJzIWTDns&t=18s>

Mrs.GREEN APPLE feat.井上苑子『点描の唄』



以前共演したYouTuberとおすすアカペラ『2019年ベストヒットメドレー』から、兼ねてより、今回2度目のコラボ動画を撮らせて頂きました。シンガーの菅原優也さんと一緒に歌えて光栄でした。優也さんの透き通るような声と私の声の掛け合いを聴いて頂きたいです。
<https://www.youtube.com/watch?v=E-KeBVyT67I>

FANTASTIC DUO/SOL『Eyes,Nose,Lips』



私が以前から尊敬し、憧れているシンガー、田中惇平さんとのコラボ動画になります。彼の表現力は圧巻で、一緒に歌いながら、世界観を共有することができて幸せでした。沢山聴いて頂きたいです。
<https://www.youtube.com/watch?v=g9tlc1O7A7I>

輝く 群大生

課外活動で活躍する群大生をご紹介

輝く群大生③

映画部【MEMENTO】

熊谷 宏彰 さん 福井 健一郎 さん



映画『突然失礼致します!』とは?

全国約100大学が集結し、完全リモートで制作された長編オムニバス映画。

新型コロナウイルスの影響により、課外活動自粛を迫られたことを機に本企画が立ち上がる。

キャスト含む総勢500人もの学生が、「希望」をテーマに1分以内の映像作品を制作。1本の映画としてまとめた。総作品数は180本。

キャッチコピーは「コロナ世代、映画で闘う」。学生たちによるコロナへの闘争劇をぜひご覧ください。

『突然失礼致します!』劇場公開

全国約100大学から集まった180本の作品から厳選された65本を劇場公開しました!

<https://a.japaration.jp/>



【Profile】



熊谷 宏彰さん

社会情報学部社会情報学科 4年
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 出身



福井 健一郎さん

社会情報学部社会情報学科 4年
長野県野沢北高等学校 出身



—— 映画『突然失礼致します!』のテーマ「希望」について

福井: 今回「希望」というテーマで180本もの作品が集まったわけだけど、どんな風に受け止めた?

熊谷: 第一は「嬉しい」、かな。コロナウイルス感染症拡大の影響で、映画を撮りたくても撮れない、自粛が余儀なくされる中で、これほど多くの映像作品が集まり、1本にまとまったのは本当に嬉しいね。最初は180本も集まるとは思っていなくて、集まったとしても100本くらいかなと考えていたけれど、実際にはその倍近くの作品が集まったから。嬉しいのと同時に驚いたし、とても感謝したね。

福井: これだけたくさん作品が集まって作られたオムニバスは過去にもないんじゃないかな? 「希望」というテーマで映画を制作したけれども、集まってきた作品のなかには明るいものもあれば、逆説的に暗いものもあったから、本当にさまざまな監督の想いがつまった大きさを感じたね。

熊谷: 「希望」というテーマは抽象的で、具体的に何を意味するのは人それぞれで分からない。当初はZoomドラマが多く集まってくると予想していたけど、アニメ、ドラマ、SF、時代劇、ヒーローショーと、本当にありとあらゆるジャンルが集まってきたから、想定外だったね。

福井: 「室内で3密を避けた状態で制作する」という条件を付けたのにもかかわらず、これだけの作品が出て来たことに驚いた。全体的にアニメ作品が多く集まったけれども、CGや専門技術を駆使した作品も多かった。それぞれの団体の長所を

活かした作品一つ一つが、『突然失礼致します!』の作品全体のクオリティを更に高めてくれたように感じるね。

熊谷: 美大や芸大から送られてきた作品は「さすがだな」と思う出来栄えだったけれども、自分たちのような普通の四年制大学からもビックリするような作品が送られてきたから、「全国にはコロナ禍でもこれだけの作品が撮れる監督がこんなにいたんだ」と分かった。これは今後の映画の世界に対しても嬉しいことだったんじゃないかな。

福井: 美大や芸大以外からもクオリティの高い作品が送られてきたことは、ある意味予想を裏切ってくれたよね。

熊谷: 負けていられないと思った。

—— 映画『突然失礼致します!』で何を表現できたか

福井: ありとあらゆるジャンルの作品が送られてきたけれど、1本にまとめた今回の映画で何が表現できたのか考えてみようか。

熊谷: 創造性じゃないかな。「撮りたくても撮れない」、という想いを形にできた。180通りの希望を描けたことは一つの表現の形だと思った。自分としては“固定観念の破壊”ができたと感じた。

福井: 固定観念か。例えば?

熊谷: 「映画は多くの個性の協働によって作られる」という固定観念だね。それを壊したと思っている。撮影は最少人数で行い、3密を避けた環境下でここまで撮れた。

自粛期間は、外出自粛を必要があっても、活動を自粛する期間ではないと思っていたので、そういった観点からも、本作で「コロ

ナ禍でも活動できる」ということを証明できたと思っている。おこがましい話ではあるけど、この映画の存在を知る、ひいては観ることをきっかけに、より多くの人が活動的になってくれたらいいと思う。

福井：見てくれる方も学生が多いと思うから、学生にエネルギーを与えることが大事だね。次に実際撮ってみてどうだったか、どういうことを考えたかについて教えてほしい。

熊谷：初めて映画を撮ったんだけど、難しいね。普通に撮っても面白くないと思ったから、いろいろな角度から撮って創意工夫をしていったよ。福井さんはどうだった？

福井：自分は大学卒業後の5年目をテーマとして「5年目」という作品を監督したんだけど。自分自身で会社を立ち上げて4年間やってきたけど、もっと大きなものを作りたかったなと思っている。その一方で、もし失敗したらダメージも大きかったはずだと思っている。とはいえ、熊谷が常に言っている通り、学生って、もし失敗しても、まわりが寛容にみえてくれることが多いと思う。学生時代に失敗してもまた次のチャンスは巡ってくるわけで。そんな中で、大きなことを成し遂げようとしたときに壁にぶつかって失敗したら、(大学入学してから数えて)5年目にはどうなるのだろうか、ということ表現したかった。

実際に撮ってみてどうだったか。短い時間だったけど、撮影を手伝ってもらった映画部のみんなとも衝突があったし、自分の創造性とまわりの意見のすり合わせが大事だと思った。勉強になった。

熊谷：自分がいいと思ったものでも、他の人の目から見ると、ちょっと違うんじゃないかって思われることはあるわけ。そこを突き詰めていって、最終的に相手を納得させることができる作品が良い映画なのかもしれない。

福井：ずっと作る側の立場をやってきたけど、どの媒体でも大切にしてきた点で共通しているのはコミュニケーションだから、社会情報学部での学びと通じてくると思う。

熊谷：僕らの映画は、撮影するといっても、関わるのはせいぜい2~3人だったから、より大人数の撮影で意思の一致を図ることの大変さを学んだよね。遠回しにだけど。

——映画『突然失礼致します!』を企画した経緯

福井：熊谷は3年次に群馬大学に編入してきて、その年に映画部を立ち上げてすぐのコロナ禍。そのような中で、この企画をするに至ったいきさつを聞きたいんだけど。

熊谷：思い付きから群馬大学の映画部を立ち上げたのが、去年の10月末。はじめのうちは機材もノウハウもないので、映画鑑賞の活動をしていたわけなんだよ。たまたまある映画館に行くと、群馬大学の映画部としてあいさつをしたら、代表の方と話せることになって。困っている状況を伝えたら、代表の方が「可能な範囲ではあるが機材も貸せるかもしれない。高崎映画祭の撮影現場にも足を運びなよ」と言ってくださったので、機材とノウハウが両方手に入った。その後、死にそうだと感じ

るくらい体調を壊したときに、いろいろな後悔が出てきたんだよ。その後悔のひとつに映画を撮らなかつたことがあって。体調回復後、映画を撮ろうと決意したところでコロナ禍。どうするかで悩んだときに、他の大学の映画部はどうしているか気になったわけ。それでSNSを通じて、オンライン交流会を持ちかけたところ、それが全国に広がっていった。この企画の話をしたら多くの賛同が得られて、映画を撮れると確信したので、企画書作成から開始したというのが事の経緯だね。

福井：気づけば制作委員会も大きくなって、全国から自分たちのような人や、映画一筋で頑張ってきたような人たちまで、それぞれに強みがある多様な人が集まったけど、縁だね。

熊谷：そうだね。運命というか、宿命というべきなのかな。

福井：最初に高崎のフィルムコミッションなどに接触したあと、プランもない中でとんとん拍子に話が進んで、映画自体にも後援やご協力をいただいた。この映画を広報し始めたときも真っ先に取材をして特集を組んでくださったのも群馬県内の報道機関だし、東京などの大都市ではなく群馬だからこそ、こんなに勢いをつけてできたと思うよね。

熊谷：群馬から発信できたのは異常事態だと思う。ある知人から、東大や早慶がこの取り組みを始めたんだらうと思ったから、群馬大学が最初にはじめたと書いてあったのでビックリしたって言われたのね。地域に感謝したよね。県内の報道機関とのご縁をつなげてくれた福井さんにも感謝しているよ。

福井：自分自身が会社をやっている中でプレスリリースしたことや、SIJ^{*}の活動の一環として大学のフリーペーパー編集でデザインや執筆をしたりしてきた中で、まったく畑違いで培ってきたものが生きたのも、このプロジェクトの面白いところだと思うよ。映画を作りたいという思いは全国の映画部と同じだったから、企画書や報道発表資料作成などの制作過程に携われたのはありがたい話だった。

——クラウドファンディングの取り組みについて

福井：『突然失礼致します!』の企画の一番の勝負どころは、クラウドファンディングだったよね。

熊谷：そうだね。40万円相当支援金を募る予定だったのが、蓋を開けてみたらそれを遥かに超えて111万8,500円も集まったわけだけど、正直ここまでの金額は集まらないと思っていたんだよ。群馬の企業などにも多くの支援をいただいた。本当に苦境にあえいで存続の危機に陥っているのはミニシアターだから、学生に協力してくれるとは思わなかった。福井さんはどう思った？

福井：最初は「とんでもないな」と思ったね。自分も目標金額を達成するのは厳しいと考えていて、必死にやったところで20万円くらいしか集まらないんじゃないかと思っていたから、目標金額の200%を越えたのは想定外だった。支援してくださった方のおかげだったよね。

熊谷：目標額の40万円を超えてからは全然金額が伸びなかった。

そこから伸びていったのは、群馬のいろいろな企業からのご協力があったから。感謝だね。

福井：再生回数も本編に関しては累計25,000回、予告編等を含めれば6万回に迫る勢いになってきた。地域の報道誌や、群馬のみならず全国の地方紙、メディアにも取り上げていただいたので、さまざまなルートから、映画『突然失礼致します！』を知っていただけたと思う。映画たるもの、コロナ禍が落ち着いたら劇場で上映したいという思いもあったわけだけれども、2021年1月に高崎で正式な上映会を実現できる見込みとなったね。

熊谷：地域への感謝だね。最初に支援してくれた高崎フィルムコミッションで上映できる結果になったというのも感謝だね。そしてなによりこの大学が寛容だったね。

福井：コロナウイルス感染症拡大の影響で、リモートであれなんであれ、課外活動を全面禁止している大学もあったし。

熊谷：例えば群馬トヨタ様からもご支援いただいているんだけど、それは群馬大学が広報してくれたからなんだよね。大

学が協力的だったのはありがたいことだったよね。

福井：ここ群馬だからこそ。

熊谷：企画当初は東京と群馬で上映できるといいな、くらいに思っていたのが、全国規模で上映できるようになった。今後が楽しみだね。

福井：全国規模で上映できるから、すごい速度で伝播してくれようと思う。

熊谷：金字塔とまでは言わないけど、試金石にはなったと思う。ここからどう広がってゆくか楽しみ。

福井：劇場公開になったら、インターネットで知ってくれた人だけでなく、映画文化に精通した人も見てくださるから、そういった方からの評価は怖くもあり、ドキドキもするよね。

熊谷：いつかは通らなくちゃいけない道だね。

福井：学生のうちにできて良かったよね。コロナ禍だからこそできた企画だった。

※SIJ(Social and Information Journal)とは：群馬大学社会情報学部の学生が制作しているフリーペーパー&サークル名。2009年から年1回のペースで発行している。
<https://www.sij.ac.nz/about/>





——『突然失礼致します!』をするうえでよかったことや難しかったこと

福井: 『突然失礼致します!』の制作を企画段階からやってみて、難しかったことや追い風になったことなどがあれば聞きたいな。

熊谷: 映画サークルって実際はかなり閉鎖的で、他大学との交流がないんだよね。今回この企画をやって、初めて他大の映画サークルと話すという人がたくさんいたくらい。映画部は通常4~5月で部員を集めて、6月から撮影を開始し、それが終わったら文化祭での上映に向けて準備をし、先輩を送り出す。このサイクルがコロナのせいで断ち切られてしまった。コロナ禍だからこそ、全国の映画サークル同士が手と手を取り合えたと感じた。映画制作をやりたくてもできなかった。だけど創作性は途絶えてなかった。『突然失礼致します!』は行動が先行して、後から企画書ができるというイレギュラーな流れだったから、著作権処理の問題など詰めが甘い部分もあったわけだよ。さまざまな分野に長けた有識者が多くいたことが助けられた点だね。ある意味よかった点でもあるかもしれない。

福井: 熱意がある人も多かったけど、コロナで映画を作りたいくても作れない人も多くて、途中で撮れなくなったことが本当に多かったね。リモートだとつなぎ止めは難しいよね。顔を合わせることの大切さを感じたね。

熊谷: 一度も顔合わせをしていないのはすごいよね。群馬から出てないわけ。それに、普通だったら絶対知り合えない人たちと知り合えた。それは大きいね。ここ、地方だし。ここで知り合いを増やすのは結構至難の技なのに、全国の人と知

り合えた。これから全国を回る楽しみもできたね。

福井: コロナ禍だからこそリモートの強さも知ったね。

熊谷: 今の学生ってここまでできるんだって感じたね。最初は僕らの思いつきに賛同してくれる人たちが集まってきたのが、だんだんエキスパート集団になって、文章制作や広報などの、それぞれの分野に長けた人が出てきた。それがコロナ禍だからこそその難しかったことと良かったことかな。福井さんはどうだった？

福井: 良かったことが多かったと思う。ただ、本来だったら劇場公開も年内にできたはずなんだけど、コロナウイルス感染拡大の動向をみながら、どう活動を展開していくかについて頭を悩ませたな。

——残りの学生生活について

福井: 熊谷は去年編入生として入って来たばかりで、学生生活で足りないこともあるかもしれないけど、残りの時間はどう過ごしたい？

熊谷: 就活と『突然失礼致します!』のプロジェクトを同時並行でやっていくのがこれからの展望の一つ。この企画は大学生生活4年間で映画制作にささげた人が集大成としてやるようなことだと思っていたんだけど、僕らは最初に成し遂げてしまった感じがあるんだよね。だから「これぞ学生映画」というものを作りたい。それから、大学生だからこそできることをやってみたい。例えば以前ヒッチハイクをしながら日本一周ではなく縦断をしたんだけど、今度は一周まわってみたいね。あわよくば世界一周を。

福井：エネルギーがあり余っているね。自分が3年生だったら
広告研究会でも立ち上げたかもしれない。

熊谷：新しくサークルを立ち上げてもいいかもしれないね。
思いつきをいかに形にしていくことが課題だと思っている。
福井さんは何かある？

福井：自分はITを学んだけれど、途中から「公務と法律ディ
レクション」*^{*}に行っ、さらに憲法ゼミに入って、最終的に
は金融機関に就職することになった。計画がちがう方向に向
かっていったけど、自分自身面白いなって思っている。卒業
論文はリモートでやってきているから、遠出でもしたいな。

熊谷：キャリアプランを立てるとか言われるけど、きっと計画
通りの人生はおもしろくない。というか絶対にどこかで破綻す
ると思うから、プランを立てるだけ意味が無いと思うんだよね。
お互いにどうなるか分からないけど、10年後が楽しみだね。

福井：映画に関わった人も10年後が楽しみだし。

熊谷：『突然失礼致します!』はキャストを含めて500人関係
者がいるからね。甘い見立てかもしれないけど、これだけい
ればカンヌとかベルリンとか、アカデミー賞を獲る逸材や第
二の黒澤明監督が現れるかもしれない。

——これからの映画やエンターテインメントに ついて

福井：制作に関わった人の中には映像、映画業界に進む人も
いる。熊谷も映像、映画業界を目指していると思うけど、こ
れからの映画はどうなっていくと思う？

熊谷：なんとなくの想像だけど、映画の在り方が変わって
くるんじゃないですかね。

福井：サブスクが台頭してきて、劇場に行く人が減っている
という話はすでに出てきているし。

熊谷：僕も劇場よりアマゾンプライムで見ている確率の方が
高い。「映画であっても劇場にあらず」という二律背反は拡
大してくると思う。映画の在り方は根本的に変わってくる。
ましてや今映画を作れてない。この企画をきっかけにいろん
な人の話を聞いたんだけど、来年の秋には作品のストックが
切れるらしいんだ。いざ撮影したらキャストがコロナウイル
スに感染した事例も結構あって、新しい企画は何も通って
いない。日本だけでなく、世界全体で映画が危ない。おそらく
大きな変革が起こっていく。学生映画、若い力って絶対伸び
ていく必要があると思う。日本は年功序列の側面が強くて、
一発当てた人がずっと上にいる業界なんだよね。若い世代の



力が輝いていける時代にしなければいけない。学生映画の位置は低い。

福井：学生賞を目指したり、短期的だったりね。

熊谷：学生映画はクオリティが低いとされているから一般に見られていないだけで、実際はそうではないと思ってる。学生映画の中にも粗削りだとしても間違いなく面白いものはあるよ。ただ、学生映画は学生映画賞への出展ありきで動いていると思う。作った後のことは考えていない。映画の本質は大衆娯楽だから、見られる人に見られなければならない。そこにあぐらをかき続けたことが、学生映画がここまで閉鎖的になった原因だと思う。これをオープンにしていかななくてはいけないわけですよ。そういう点に於いてこの作品はすごい試金石になったと思う。

福井：ネットが広がってきているから、公開した映画がどれだけ見られるようになるかを伸ばしてゆく必要があるだろうね。

熊谷：予算をかけた大型の映画の中にも、ネットで先行公開するものも出てきているから、今後もこの流れは加速してゆく。学生映画にとってもこれはチャンスだ。いかに生かしていくかだね。『突然失礼致します！』と同じようなものをやる垂流が出てきてもいいわけですよ。それが業界を救うことになるわけですよ。

福井：業界も変わってきている。ずっとランキング1位を独占していた昔の映画が最近の作品に塗り替えられている。

熊谷：変革の時期が訪れているわけですよ。映画に関してだけではなく、エンターテインメント全体においても同じことがいえる。僕も若輩者でよくわかっていないんだけど、今後どうなっていくか楽しみだし、携わっていきたく思っている。

福井：ネット公開しかり、コミュニケーションの面から群馬大学新情報学部の役割にも期待したい。

——映画部の今後などについて

福井：映画部を今後後輩に託していく立場としてどう考えている？

熊谷：狭い界限だと思うけど、日本の大学映画部という界限の中だと、群馬大学映画部は新進気鋭になったと思う。誰かしらこの取り組みを継ぎたい人が出てくると思う。そういった方々がいたら、僕が持っているノウハウを渡しますね。歴史は塗り替えられて初めて成立するものだと思っていて、僕よりすごい人は今後出てくる。彼らが出てくることを期待しています。

福井：先輩の持っているノウハウを吸い込んだら強くなる。この映画を通じて群馬大学映画部の1期生としてノウハウを積むことができたから、2期、3期と引き続きノウハウを積んでいてもらいたい。何人か新入生も入ってきているから、この流れをつなげていきたいよね。

熊谷：オンリーワンになってほしい。ルーティンが続くことがイヤ、奇想天外なことをひたすらやっていくというのがいい。うまくやってくれる後継者を探し出さないとね。この大学の寛容さに学生がこたえていない。いわゆる安定志向の方が多いイメージがある。これから新学部ができるわけなので、それがいい風になって欲しい。

福井：社会情報学部は全国の国立でも唯一の先進的な学部だったから、無くなるのは残念だね。社会情報学部の特徴が活かしきれなかったのは学生側の責任でもあると思うし。

熊谷：だから在学生在が最後の輝きを見せてほしい。一風変わった人が入ってくる、その流れは作りたいね。

福井：やりたいことが無い人も何でも学べるのが社会情報学部の良い所だったから、そこが使えれば素晴らしいけど。

熊谷：やりたいことが何でもできる学部やりたい人が何も無い人が入ってきている。やりたいことが見つけられない人は、結局卒業までやりたいことを見つけれない。この先の躍進に期待ですね。映画部だけでなく、群馬大学の躍進にも期待しています。

——後輩・読者の方へメッセージ

福井：では、最後にメッセージを。

熊谷：後輩の皆さんに。学生のうちは何度もトライ＆エラーできるんだよね。何やっても1回目なら笑って許されるんだよ。なので、この期間を有意義に過ごしてほしい。学生生活が終わった後、後悔しないでほしい。「あのとき、あれやっておけばよかったな」と思うのは、人生的に痛いですよ。なので、本当にやりたいと思ったことはやって欲しい。頑張ればできますから。僕は映画という切り口からこんなことをやりました。きっと僕よりすごい発想を持った人がたくさんいるんですよ。だから、やりたいとおもったらまず、やりましょう。それが1番です。周りに流されないでください。

それと、読者の方へ。学生が変なことをやろうとしていたら、笑って許してください。間違いがあるかもしれませんが、あきらかな間違いは叱ってやって、それ以外は応援してあげてください。それが学生生活を送った自分と言えることです。この大学はすごく恵まれていると思うので、学生が思いつきで話したことをほめてあげてください。それがきっといい結果を生みます。

福井：今、群馬大学は変革期だと思います。今ある4つの学部のうち、共同教育学部は昨年設置されたものですし、来年は理工学部が改組され、情報学部が誕生します。群馬大学の学部は、全て変わってきたブランドです。先生方は研究で躍進されていくと思いますが、群馬大学の学生は群馬大学卒業後、社会で活躍してゆくものだと思っています。在学生在に群馬大学の伝統を背負って塗り替えてほしいと思っています。特に新情報学部を志望する学生の新しいエネルギーに期待したいです。

※ディレクションとは：社会情報学部は入学後、進路希望に応じた3つのディレクション（メディアと文化、公務と法律、経済と経営）の中から、自ら学修を深めるべき方向性を決めるディレクション制をとっている。

<https://www.si.gunma-u.ac.jp/about/>





キャンパス紹介 出張版!

(学生広報大使企画)

ようしんりょう 養心寮

群馬大学には、前橋地区に養心寮、桐生地区に啓真寮の2つの寮があります。今回は養心寮の寮生として生活している学生広報大使が、養心寮の寮長の吉長さん取材しました。



このコーナーの取材を担当した
学生広報大使!

医学部保健学科 3年 筒井 美帆さん
養心寮寮生【福島県立白河高校出身】



このコーナーの撮影を
担当したのは!

医学部写真部 医学部医学科 4年
部長 田中 郁亘 さん



養心寮寮長の吉長 花咲さんにインタビュー

——養心寮とはどのような寮ですか？

寮生活と聞くと、管理人さんがいて、門限があったり、ご飯を作ってもらったりするような生活を想像される方も多いと思いますが、養心寮はそうではありません。養心寮は自治寮と呼ばれる、学生たちが自主的に生活する寮です。寮生一人一人が規則を守るように呼びかけ、快適に生活できるような工夫をしています。寮生は130人近くいるため、お互いの妥協点を探し、規則などを全員で話し合いながら決めています。

——寮長の主な仕事にはどのようなものがありますか？

寮長の主な仕事は、寮の管理人と毎週打ち合わせを行い、毎週月曜日に行われるブロック会議で寮生に伝達事項を伝えることです。

——ブロック会議とはどのようなものですか？

養心寮は、各階をブロックと呼ばれる区分に分けています。

ブロック会議とは、毎週月曜日の22時から開催される



毎日温泉気分で入浴できます♩



ブロック会議をする談話室

連絡会議です。ブロック会議では、事前に寮長から各ブロックの代表者に伝達されていた連絡事項を、各ブロックの代表者から寮生に伝達する形式をとっています。

——寮長になってよかったことはありますか？

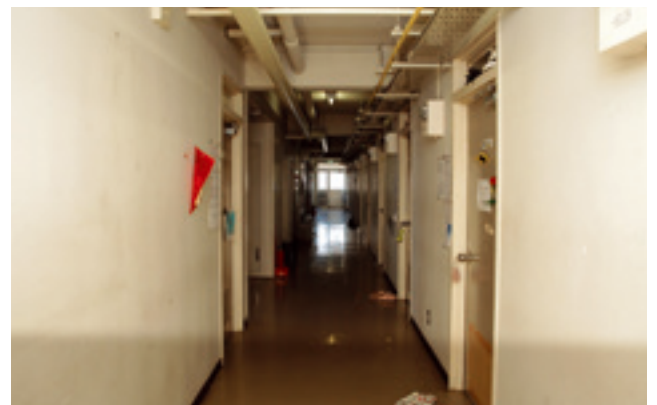
今年は新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな行事が中止になってしまい、積極的に新入生と関わることができなかったのですが、寮長になったことで、連絡を伝達する際などに、様々な人とコミュニケーションをとることができ、人との関わりが増えました。そこがよかったところです。

——寮長になっていやだなと感じたことはありますか？

いっぱいあります（笑）そうですね。言いたくないことを言わなくてはいけない立場であることです。規則を守れない人がいる場合、寮長として毅然とした態度をとらなければならない、嫌われ役にならなければならない。それがつらいです。また、今年は新型コロナウイルス感染症のために行事を中止する決断をすることもつらいです。本当は、私もみんなと楽しく行事をしたいので……。



補食室にある、魚グリル付き2口ガスコンロがお気に入り！
たまに友達と井戸端会議をします♪



廊下の奥、何かいませんか……？



——行動できないこの状況下で寮長として工夫していることはありますか？

例年であれば4月に新入生の歓迎会を行っていましたが、今年は中止になりました。入寮したばかりの1年生はとても不安だったのではないかと思います。上級生の私たちも顔を知らない人と暮らすのは寂しい部分がありました。

新型コロナウイルス感染症が落ち着くまでは、積極的に寮生が集まることはできませんが、普段すれちがったときにあいさつをするなど、日常生活のなかで少しずつお互いの顔を知っていきたくと思っています。

——寮長在任期間中にやりたいことや変えたことはありますか？

地域の方などの寮の外部との交流を図りたいと思っています。例年であれば、地域の方と交流する機会もあったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、どのように地域の方との交流を行っているか知らない世代もいます。そのため今年は形にこだわらず外部との交流ができればいいな、と思っています。

——一人の寮生として、養心寮に入って1番楽しかったことや良かったと思うことは何ですか？

寮に帰ってくると絶対知っている友達がいる、話したいときに話せるし会えるし、1人じゃないと思えるところです。

——逆に寮に入って少しいやだったところはあるですか？

全部自分たちでやらなければいけないので、毎週掃除当番が回ってきたりするところがめんどくさいと感じてしまうこともあります。

——入寮を考えている人にメッセージをお願いします。

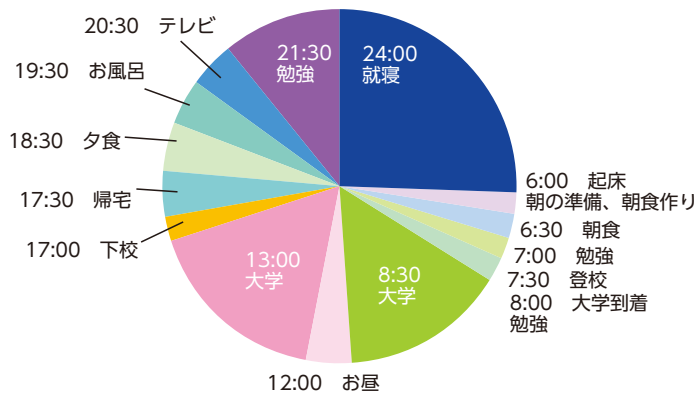
掃除当番など大変なこともあります。養心寮には全学部から群大生が入寮するため、学部を越えたつながりができます。一人暮らしや実家暮らしなどでは出会えない友達ができるのです。

想像していた寮生活と違うと感じる方もいるかもしれませんが、養心寮では他ではできない経験ができると思います。「『楽しい』の裏側をつくる」ことができるのが養心寮です。

——最後に、このインタビューの依頼がきたときにどう思いましたか？

寮のことを知ってもらえるのはうれしいと思いました。噂だけで寮はひどいところと思われがちなので、それを払拭できるいい機会だと（笑）私は、養心寮はとても楽しいところだと思っています。

とある寮生の1日



養心寮のウソ！？ホント！？

養心寮は古く歴史ある寮です。その外観と内観はまるで廃病院のよう！？寮の行事では、寮を舞台にした短編ホラー映画を撮ったことも。

Q1 寮の行事ですごく忙しいってホント！？

養心寮には前期と後期ごとに、七夕祭、寮祭という大きな行事があり、その他にもスポーツ大会や地域の方と交流する長寿会などの細かな行事があります。行事の準備などがあるため、寮生ではない群大生と比較すると忙しくなるかもしれません。勉強に支障のないよう考慮しながら、行事を通して寮生の絆を深めていきます。

Q2 寮は門限があるってホント！？

養心寮は門限の規則を定めていないため、門限はありません。ブロック会議や避難訓練など、寮生が全員参加しなければならない用事がある場合には、決まった時間までに寮に帰宅していなければなりません。

Q3 群大生なら一度は聞いたことのある、寮の「はんこもらい」が怖いってホント！？

はんこもらいとは、新入寮生が在寮生の先輩方から寮での生活について話を聞いたり、お互いを知ることが目的として行われる行事です。この行事を行うにあたり、細かな決まりや作法が多いため、新入寮生の中には少し怖いと感じる人もいますが、大勢での寮生活を送る上では欠かせない行事の一つです。

養心寮卒業生の声



医学部保健学科

看護学専攻（2010年3月卒）

大久保 明美さん

卒寮して10年が経ちました。私は現在、都内の消化器内科のクリニックで看護師として勤務しています。養心寮で過ごして良かったことは、心から信頼できる仲間ができたことです。養心寮が自治寮であることや、様々な行事に参加することによって、寮生とたくさんの時間を共に過ごしたからこそ得られたのだと思います。

今の私の生活に活着ていることは、学生時代と変わらず同期とつながりがあることです。飲み会をしたり結婚式に参列したりして、同期から幸せのお裾分けをもらっています。先日は作業療法士の同期からもらったアドバイスを職場で活かし、患者さんの力になることができました。

私にとって養心寮はまさに心を養ってくれた場所です。一生の仲間をくれた養心寮に感謝しています。

養心寮の詳細はこちら！



・養心寮オリジナルページ



・養心寮について
(群馬大学HP)



・養心寮の実際のお部屋の一例はこちら
(webオープンキャンパスページ)

GUNDAI LIFE in 養心寮



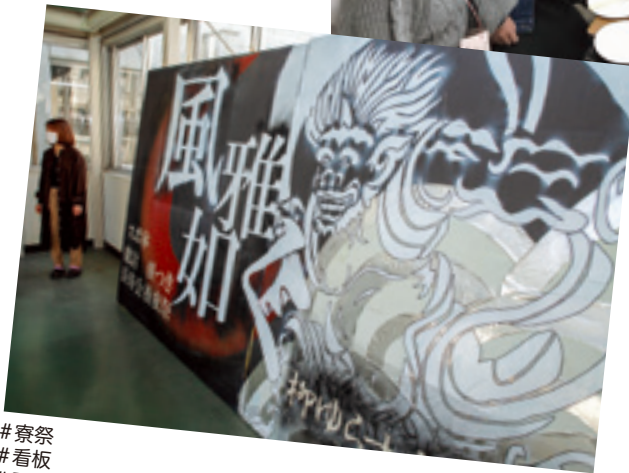
#女子寮生集合
#スポーツ大会
#集合写真



#寮生オリジナルTシャツ
#おそろい



#入寮パーティー
#新入生歓迎♪
#今日から寮生



#寮祭
#看板
#風神雷神図
#すごい迫力
#力作



#地域交流
#バターゴルフ
#長寿会



#寮生集合
#一部だけど
#談話室



#荒牧祭
#みんなで出店
#麻婆カレー

学生支援の取組み

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの皆様からご協力いただいた「群馬大学基金」等を活用し、以下のとおり学生支援の取組みを行っておりますので、ご報告いたします。

その1 奨学金給付等事業

●緊急学生支援奨学金給付 大学独自(基金+大学経費)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢等の変化により、困窮状態にある学生に対する緊急支援のため、返済を要しない緊急学生支援奨学金を給付しました。

▶5万円を約950人に給付(総額約4,750万円)

●入学金免除、授業料免除等 文部科学省支援

●大学院生への奨学金給付 大学独自(基金)

経済的困窮度が高く、意欲と能力のある大学院生に修学支援金を給付します。

▶20万円を約12人に給付(総額240万円)

●学びの継続のための『学生支援緊急給付金』

文部科学省支援

その2 オンライン授業サポート事業

●学生のオンライン授業受講環境整備支援

大学独自(基金)

オンライン授業を受講するための環境を新たに整備した学生に対し、経済的な支援を実施しました。

▶1万5千円を約770人に給付(総額約1,150万円)

●オンライン授業に伴う通信機器(PC等)の貸出し 大学独自

PCやネットワーク環境が準備できない学生には、機器の貸し出しを実施しています。

▶PC 105台・ルーター75台を貸出し

●遠隔授業等の環境構築事業 文部科学省支援

その3 その他サポート事業

●オンライン相談会の実施

(健康支援総合センター・学生支援センター) 大学独自

学生の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする健康支援総合センター及び学生生活・就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている学生支援センターにおいて、両センター所属の教員が、学生の心身、人間関係や勉学など修学にまつわる悩みについて、オンラインによる相談会を実施しました。

▶学部新入生を対象とした相談会 3回

▶学部在学生在対象とした相談会 2回

●学生寮の感染防止対策環境整備 大学独自

学生寮における新型コロナウイルス感染防止対策として、アルコール消毒液、除菌スプレー、サージカルマスク等を購入し、寮内の環境を整備しています。

●国費外国人留学生受け入れサポート

国費外国人留学生については、入国の際、14日間の宿泊施設等での待機が必要となることから、これにかかる食事代等の滞在諸費用を補助しています。

文部科学省支援+大学独自(基金+大学経費)

●新入生に対するオンラインサポート 大学独自(基金)

新入生に対し、2年生以上の学部学生がサポーターとして、Zoomによるオンラインサポートを実施しました。2年生以上のサポーターには、大学業務への協力による謝金を支給しました。

▶5日間実施 新入生 108名参加

▶2年生以上のサポーター 21名参加

●動画配信やZoomを使用した就職支援の実施 大学独自

就職ガイダンスをライブ配信や収録動画で配信し実施しています。就職相談は、Webカウンセリングとして実施しています。

▶就職ガイダンス 18回 参加延べ人数 約1,600名

▶就職相談 97日 相談延べ人数 約330名

※2020年10月末現在

●聴覚障害学生に対する情報保障サポート 大学独自

聴覚障害学生に対する情報保障に必要な機器類(iPad、スピーカー、ヘッドホン、オーディオ変換ケーブル等)を整備し、オンライン授業における情報保障を実施しています。

新型コロナウイルス 感染症に伴う ご支援への御礼

国立大学法人群馬大学長 平塚 浩士



皆様には、日頃より群馬大学の発展にご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、本学では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて保護者の家計の急変や学生本人のアルバイトの減少などにより、経済的に大きな被害を受けている学生等を支援するため、群馬大学基金へのご寄附をお願いしてまいりました。

これまで、本趣旨にご賛同をいただいた同窓生、保護者、企業・団体等、多くの皆様から温かいご支援をいただき、

新型コロナウイルス感染症に伴う学生の生活支援、学習環境の整備支援等行うことができました。皆様からのご支援とご協力に厚くお礼申し上げます。

現在もなお、新型コロナウイルス感染症拡大は予断を許さない状況にあります。学生が修学をあきらめることのないよう、今後とも学生生活等の支援を継続してまいりますので、引き続き群馬大学基金にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

群馬大学基金により支援を受けた学生の声

緊急学生支援奨学金給付を受けた学生の声

社会情報学部 4年生

私は、大学内で行うアルバイトと仕送りで生計を立てていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、大学内で行っていたアルバイトを行うことができなくなり、アルバイト収入が無くなりました。実家も影響を受け、仕送りも従来通りではなくなりました。貯金だけで4月から生活をしていましたが、それも6月で底をつきそうになってしまいました。それを受けて私は、学費・生活費(家賃、光熱費等)のために緊急学生支援奨学金給付を希望することになりました。

しかし、私事ですが2020年8月に緊急入院が決まってしまいました。新型コロナウイルス感染症が原因ではなかったものの、突如入院を余儀なくされ、ただでさえ収入がなかった上に治療費と入院費が必要な状況に追い込まれました。入院生活が終わった後も、継続した通院が必要になり大学

生活に必要なお金の他に通院費も必要になりました。

そこで、緊急学生支援奨学金給付を受けることができている私は、この給付金を治療費と入院費の補助に充てる事ができました。本来予定していた使用目的とは違い、緊急に必要な使用目的でしたが、収入が途絶えていた私にとって大きな支援となりました。結果として、無事入院生活を終える事ができ、治療費等も問題なく支払う事ができました。その後、大学生生活も通常通り送る事ができ、通院も問題なく行えています。緊急学生支援奨学金給付を受ける事ができていなかったら、どうなっていたのだろうと考える事があります。想定外な使用用途にはなりましたが、本当に助かりました。

新型コロナウイルス感染症の流行は未だに広がり続け厳しい状況は続いています。前述した通り支援を受けたことで、従来通り不自由なく大学生活を送る事ができています。

学生のオンライン授業受講環境整備支援を受けた学生の声

理工学部化学・生物化学科 3年生

今年度、初の「オンライン授業」が始まるにあたり、私は3つの問題を抱えていました。

1つは、PCが古いため動作が重く、度々突然電源が落ちるようになっていたことです。そのため負荷が大きいZoomを用いた授業に不安を覚えました。さらに小型で画面も小さかったため、画面共有により授業が進められた際に、字が見えづらく感じました。

次に、自宅アパートのインターネット環境が元々良くなかったことです。オンライン授業が開講されると、学生が多いアパートでは同じ時間に講義を受講する人もいるため、よりインターネットに繋がりにくなりました。また、無事にアクセスできても途中で回線が不安定となり、先生の声が途切れて聞こえ、静止またはZoomが落ちることも度々あったため、集中して講義を聴くことができませんでした。そこで、これらを改善するために資金調達を試みましたが、長年お世話になっていたアルバイト先が新型コロナウイルスによる経営難となり、学生アルバイトは一斉解雇されま

した。

以上の状況に置かれた私は、親族にも相談し援助を願う中、切り詰めた生活を強いられていました。

そんな中「群馬大学学生のオンライン授業受講環境整備に係る経済的支援」が始まり、早速応募しました。遠方に住む両親に書いてもらう書類もなかったため、気軽に申し込むことができました。

私はこの支援金を、先に記した問題を解決する一部に充てました。まずPCについて、今後のオンライン授業が快適に聴講でき、さらに研究活動においても必要なパフォーマンスを有した大きめのもの買い換えました。加えて、アパートのインターネットについて、会社やプランの検討を行い、回線を切り替えました。

支援を受けられたお陰で、資金調達のために学業を疎かにすることもなく、安心してオンライン授業に臨むことができました。

困っている学生のためにこのような支援が行われたこと、その恩恵にあずかれたことに感謝申し上げます。

新入生オンラインサポート サポーターの声

医学部保健学科 4年生

私は、新入生オンラインサポートで、上級生サポーターとして参加させていただきました。最初はZoomを使って複数人で会話することに慣れていなかったり、マイクやビデオの関係で会話が続かないこともあったり、オンラインでの難しさを感じました。Zoomの扱い方が分かってくると、新入生を交えながら、みんなで話せるようになりました。話せるようになってくると、上級生も新入生もそれぞれ新型コロナウイルス感染症の状況に困っていることがあることが分かりました。ただし、具体的に困っていることはなく、漠然とした今後の不安のようなものが多かったです。みんなそれぞれがこの新型コロナウイルス感染症の状況に将来の漠然とした不安をかかえていて、このオンラインサポートでは、それを共有することができました。不安の根本的解決には至らなかったものの、充実した時間となりました。私は一人暮らしで、家に1人で引きこもる生活が続いて、不安な気持ちを口に出したり今まで普通にしていた友達と

の雑談もできなかつたりという状況だったので、誰かと話ができるという機会を設けていただいたことがとても嬉しかったです。困っているのが自分だけじゃないと思えたことも安心感に繋がりました。新入生にとっても少し安心できた、大学生活をもう少し頑張ろうという気持ちになってもらえていたら嬉しいです。また、普段の生活でも他の専攻の後輩とは話す機会がなかなかないので、今回のオンラインサポートの期間で、他専攻の後輩と話せたことで、他専攻について知ることができ、他専攻の理解が深まったように感じます。同じキャンパスで勉強をしていますがなかなか知る機会が少ないので、他専攻を理解するいい機会となりました。

今、実験・実習等は徐々に対面授業となつてはいますが、大学になかなか行けず、課外活動も制限され、教授や友達、後輩達に会う機会がほとんどありません。これからも、オンライン対面問わず、私たち学生が大学内の人脈を広げられる機会を設けていただければと思います。

Introduction to one of the GU Researchers!

研究紹介

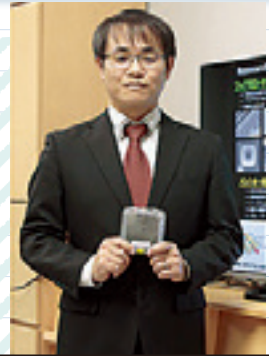
Theme

『半導体製造技術の未来』

研究紹介

群馬大学大学院理工学府
機械知能システム理工学科

鈴木 孝明 教授



Profile

群馬県みどり市出身。群馬大学大学院工学研究科修士課程を修了後、京都大学大学院エネルギー科学研究科博士後期課程にて博士号を取得。京都大学大学院工学研究科 助教、香川大学工学部 准教授を経て、2015年に群馬大学 准教授、2018年より現職。

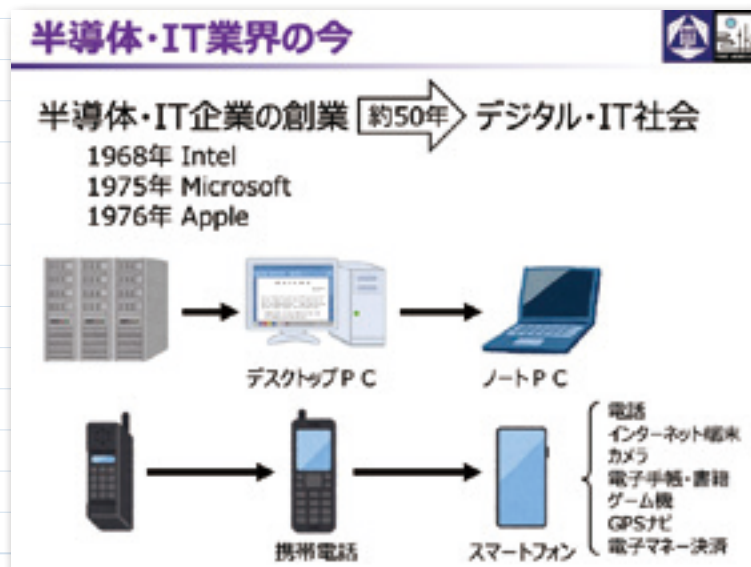
【研究分野】 マイクロマシン、MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)、微細加工、知能機械学・機械システム、バイオ・医療・環境・IoT(Internet of Things) 応用

オンライン授業にあたり、パソコンやスマートフォンに触れる機会が多くなりました。

パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器や情報端末に搭載されている半導体の技術は、私たちの生活に密接に関連しています。また、半導体の技術の観点から新型コロナウイルス感染症に対する取り組みも行われています。

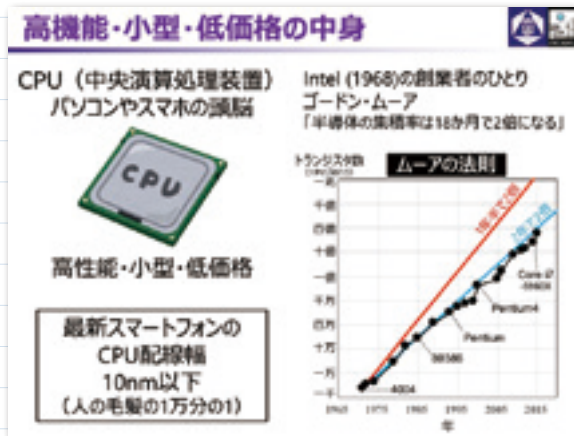
01 CPUの小型化とデジタル機器の変化

みなさんはパソコンやスマートフォンなどのデジタル機器や情報端末をお持ちだと思いますが、これらの機器に関連してIntel、Microsoft、Appleなどの企業名を聞いたことがあると思います。これらの半導体・IT(Information Technology)企業は1970年代に創業しています。イメージより古くからある会社だと感じる方も多いかもかもしれません。



一昔前のパソコンは机の上に置いて使うデスクトップパソコンが主流でした。以前のデスクトップパソコンは、数十万円以上するような重くて大きい、非常に高価なものでした。今は処理速度が早くて安価な、どこにでも持ち歩ける小型のノートパソコンが主流となっています。

以前は携帯端末といえば携帯電話が主流でしたが、現在の主流はスマートフォンです。スマートフォンでは電話やインターネットはもちろん、カメラ、電子手帳、書籍、ゲーム機、GPSナビ、電子マネーの決済など、様々なことができるようになってきました。我々の生活がこのように便利になってきている理由の1つとして、パソコンやスマホの頭脳であるCPU (Central Processing Unit) と呼ばれる中央演算処理装置が高性能化・小型化・低価格化していることが挙げられます。



02 / ムーアの法則とその限界

Intelの創業者のひとりであるゴードン・ムーアは、1965年に「ムーアの法則」と呼ばれる将来予測を提唱しました。ムーアの法則とは、「半導体の集積率は18か月で2倍になる」という半導体業界の経験則です。言い換えると、一年半後には同じサイズで2倍の性能のCPUになるということです。例えば、現在の最新スマートフォンのCPUでは、CPUの中の電気信号が流れる配線の幅は10nm以下になっています。人の髪の毛の太さは100 μ m弱なので、髪の毛の1万分の1より細いこととなります。「ムーアの法則」に従えば、この先さらなる半導体の小型化が期待できますが、いずれは電子が流れにくくなったり、加工が難しくなったりするなど、技術の限界を迎えます。半導体業界全体で必死に技術の延命を図ろうとしています。限界を迎えた先に向けた取り組みも盛んです。その取り組みの一つが、MEMS (メムス)、あるいは、マイクロマシンです。



03 MEMSとは？

Micro Electro Mechanical Systems (MEMS、メムス)とは、日本語では「微小電気機械システム」と表されます。言い換えると、マイクロマシンのことです。MEMSはCPUなどの超精密な半導体集積回路を作製していた従来の技術を利用して、電子回路だけでなく小さな機械の部品も同時に作製します。このことにより、今までに無い高付加価値の製品を作製します。

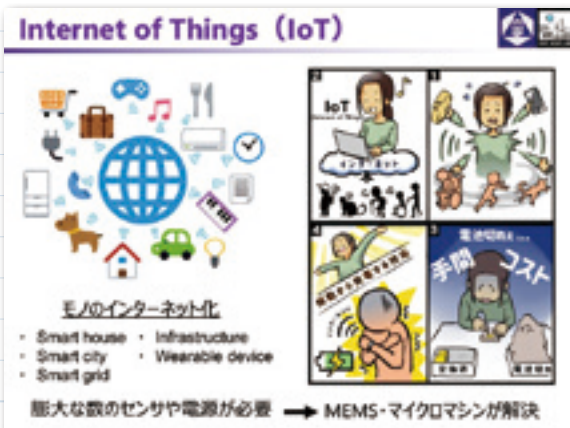
使用する製造技術の視点から見ると、MEMSは『動く半導体』と言い換えることができます。MEMSのメリットは、超小型・高機能・低コストの3つに集約されます。半導体製造技術は非常に高精細な加工を行うため、非常に高価な装置を使用します。しかし、小さな機械を同時に大量に作製できるため、一つ一つのMEMSは非常に低コストになります。機械と電気の両方の機能を集積化することにより、従来にない高機能な製品を生み出します。



04 IoT社会とMEMS

MEMSはスマートフォンや自動車など、身の回りの様々なところにたくさん使われています。現在さらなる活躍の場所として活用されはじめているのがIoT（アイ・オー・ティ）、Internet of Things、モノのインターネットです。IoTは、街、工場、生活、いろいろな場所にあるいろいろなモノにセンサを取り付けて、取得したデータを無線でインターネットに送ります。様々なデータがあつまるところで、人工知能・AIなどの技術を使ってデータを解析し、その結果をモノに返して、次の行動を促します。データを受け取るだけでなく、集めたデータを解析してフィードバックすることにより、データを集めた環境をより効率的・安全・安心に動かそうとしているのです。

IoTのなかで重要な要素がセンサや電源です。世の中にあるたくさんのものによりたくさんのセンサを載せることにより、社会がより効率化されていきます。そのためには安価・高機能・小型のセンサは必須です。これをMEMS・マイクロマシンで解決しようとしています。

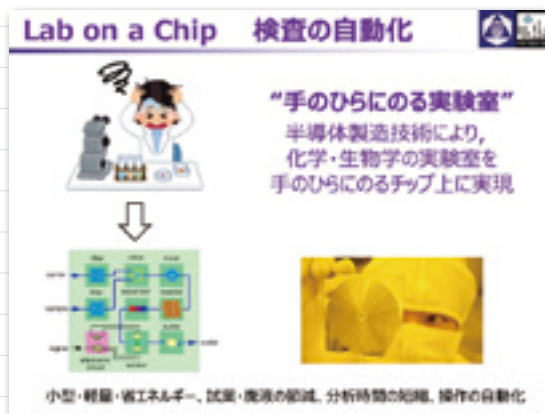


この漫画は研究室の学生が描いてくれたものです。漫画のなかではIoTによる高齢者・子供・ペットなどの見守りを想定していますが、システムの電池交換はとても大変です。私の研究室では体が動いたときのちょっとした振動を電気に変える超小型発電機の研究などを進めており、メンテナンスフリーで安心・安全な社会の構築に資することを目指しています。

05 臨床検査とMEMS・マイクロマシン

みなさんも新型コロナウイルスの診断方法として、PCR法の名称を聞いたことがあると思います。PCR(Polymerase Chain Reaction)法は患者から採取した検体からDNA遺伝子を抽出し、ウイルス関連遺伝子を増幅することにより、遺伝子の特徴的な結合能力を利用して検出する診断方法です。現状では臨床検査技師の手作業であるため、一件の検査に4時間程度かかり、検査可能数が限られています。PCR検査を自動化し、短時間で検査を実施することができるになれば、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐことができるかもしれません。

MEMS・マイクロマシンを使ってこれらの診断を自動化しようとする取り組みもされており、これをLab on a Chipと言います。直訳すればチップの上の実験室、すなわち『手のひらにのる実験室』です。半導体製造技術の応用により、様々な機能をチップに集積化することができます。こちらの漫画は私の研究室で研究中の内容です。これまで手作業で行っていた染色体診断や細胞診断をより早く、より簡単に、より高感度を実施することが期待されています。



06 最後に

このグラフは、アメリカ合衆国の代表的な株価指数である「ダウ平均株価」の変遷を表しています。社会状況によって上下動がありますが、全体的なトレンドを見ると、1945年頃から上昇と停滞を一定間隔で繰り返していることが分かります。大きな機械からIT基礎、IT応用の流れがあった中で、次の大きな技術動向の波は何であるかを探ることが重要です。

私の研究では、MEMS・マイクロマシンによるバイオ・環境・IoT応用など、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標、SDGs)に関連した研究を進めています。IoT社会向けのエネルギー開発などにおいて、県内に多く存在する様々な半導体関連企業と連携し、社会に貢献したいと考えています。





群大最新ニュース

※ 2020年8～12月に群馬大学がリリースした一部のニュースを取り上げたものです。

※ 他のニュースやニュースの詳細などは群馬大学ホームページ（トップ「大学からのお知らせ」）をご覧ください。▶▶▶▶▶▶



日付	所属または情報の種類	ニュース
8月3日	理工学府	知能機械創製部門の藤井雄作教授、電子情報部門の橋本誠司教授、知能機械創製部門の田北啓洋助教のグループが、外部からのウイルスの侵入を完全に遮蔽する軽量なフルフェイスヘルメット型の一般市民用マスクシステム「自由外出マスク（Distance-Free Mask）」を発明（特願 2020-113097） 1
8月6日	次世代モビリティ社会実装研究センター	群馬大学、相鉄バス(株)、日本モビリティ(株)が、横浜市の「I-TOP 横浜路線バス自動運転プロジェクト」の一環として、日本初の大型バスによる遠隔監視・操作による自動運転の実証実験を実施 2 3
8月7日	理工学府	電子情報部門の奥寛雅教授らの研究グループと静岡大学の川人祥二教授らの研究グループが、ピントが異なる複数の画像を同時に撮影できる技術を開発
8月24日	医学系研究科	森昌朋名誉教授と内分泌代謝内科学分野の山田正信教授らが、京府立大学ならびに順天堂大学との共同研究により、肥満マウスで肥満に伴う脂肪肝および高血糖を改善する薬剤を新たに同定
9月1日	産学連携推進課	群馬大学と(株)SUBARUが、2020年4月1日付で理工学府内に共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を設置し、8月7日に太田キャンパスにて発足式を実施 4
9月1日	産学連携推進課	群馬大学と群馬経済同友会が連携・協力に関する協定を締結
9月2日	情報学部/理工学部	情報学部及び新生理工学部の設置が文部科学省により承認
9月8日	未来先端研究機構	未来先端研究機構が、血液脳関門透過型のアデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターのAAV-PHP.eBを迅速かつ簡便に作製する手法を開発
9月14日	理工学府	環境創生理工学部門の清水義彦教授と太陽誘電(株)、大泉町、千代田町が協働で、2020年9月～2021年3月まで参加する河川等の状況をモニターする実証実験を実施
9月18日	次世代モビリティ社会実装研究センター	群馬大学、相鉄バス(株)、日本モビリティ(株)が「秋の里山ガーデンフェスタ」（横浜市旭区）の開催期間（2020年10月5日（月）～14日（水））に日本初の大型バスの遠隔監視・操作による自動運転実証実験を営業運行で実施
9月24日	医学系研究科	細菌学分野の平川秀忠准教授と富田治芳教授らが、生体防御学分野の鈴江一友講師との共同研究により、腸管出血性大腸菌 O157 のワクチン候補株の作製に成功
9月25日	医学系研究科	生体防御学分野の今井孝助教らの研究グループが、大阪大学、国立感染症研究所との共同研究により、血液脳脊髄液関門の透過性を定量する新しい方法を開発し、マラリア感染により脳の2つの関門が破綻することを解明
10月2日	生体調節研究所	遺伝生化学分野の王昊助教と泉哲郎教授らの研究グループが、北里大学、横浜市立大学、東京大学との共同研究によりインスリン分泌の新しい機序を発見
11月5日	産学連携推進課	群馬大学と(株)ヨコオが、包括共同研究契約を締結
11月9日	理工学府	群馬大学の研究課題が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の2020年度研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）に採択
11月15日	ダイバーシティ推進センター	平塚浩士学長が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が推進する「輝く女性研究者活躍推進賞（ジュニアシダ賞）」の表彰式に参加 5 6
11月16日	ダイバーシティ推進センター	ダイバーシティ推進センター設立記念シンポジウムを開催 7
11月19日	社会情報学部	オムニバス長編映画『突然失礼致します！』の劇場公開が決定 ⇒ 特集「輝く群大生 03【MEMENTO】」
11月26日	次世代モビリティ社会実装研究センター	群馬大学とあいおいニッセイ同和損害保険(株)が、自動運転車や自動運転車の遠隔監視・操作を行う管制システムなどのデータ連携による異常検知方法に関する特許を取得

日付	所属または情報の種類	ニュース
11月30日	事務局	群馬大学次期学長候補者が決定
12月1日	GKKG(グローカル・ハタラクラスぐんま)	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクトがぐんまの地酒 PR 動画コンテスト「最優秀賞」を受賞 8
12月1日	総合情報メディアセンター	特別展示「群馬県の高墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展 Part5」が開催



1 一般市民用ヘルメット型マスクのデモンストレーションの様子



2 自動運転バス



3 自動運転遠隔監視・操作システム



4 群馬大学と(株)SUBARU が共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を設置(左:群馬大学長 平塚浩士、右:SUBARU 執行役員 藤貫哲郎)



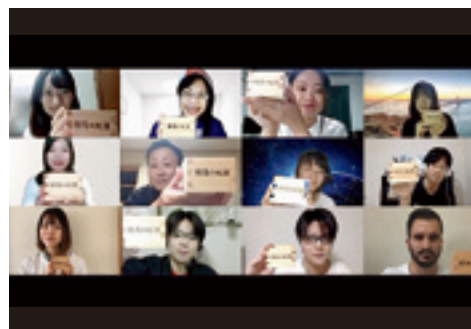
5 「輝く女性研究者活躍推進賞(ジュニアシダ賞)」のトークセッションで語る平塚学長



6 「輝く女性研究者活躍推進賞(ジュニアシダ賞)」の記念撮影



7 ダイバーシティ推進センターの設立記念シンポジウム



8 GKKG 「ぐんまの地酒 PR コンテスト」最優秀賞受賞

群馬大学基金の 活用について

群馬大学では学生に対する支援、教育研究の質の向上および社会貢献活動の充実等を図ることを目的とし、「群馬大学基金」による寄附金を募っています。皆様からお預かりした寄附金は、「学生の修学支援に資する事業」「大学運営全般に係る事業」「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」「学生等の研究等支援に資する事業」の4つの分野で活用されます。



群馬大学基金ホームページはコチラ▶

2019年度の活用事例

2019年度は、「学生の修学支援に資する事業」に4,840千円、「大学運営全般に係る事業」に1,006千円、「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」に205,662千円、支出しました。それら皆様からいただいたご寄附をどのように活用させていただいたかを、詳しくご説明します。



群馬大学基金事業報告書2019年度はコチラ▶

その1 学生の修学支援に資する事業

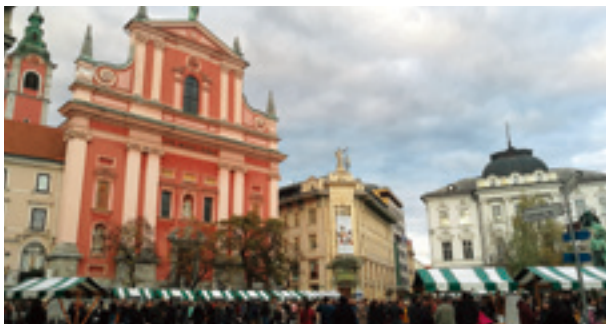
◆ 経済的困窮学生に対するサポート

「群馬大学基金における経済的困窮学生に対する修学支援金事業計画」に基づき、授業料免除申請者の中から経済的困窮度が高く、意欲と能力のある学生12名(前期6名、後期6名)に、一人あたり20万円の修学支援金を給付することができました。ご寄附をいただいた皆様に感謝をし、地域に貢献できる多くの学生を育てていきます。

◆ 学生の海外派遣をサポート

本学では、グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、留学意欲のある学生に対し、交換留学や短期研修といった海外派遣のための奨学金制度を実施しています。2019年度は延べ204人の学生に海外留学を経験させることができましたが、そのうち32人が、本基金からの支援を受けて海外留学(アメリカ、オーストラリア、韓国、シンガポール、スロベニア、ドイツ、フランス、ベトナム、マレーシア、モンゴル)しました。

群馬大学基金を通じた寄付者の皆様の経済的支援が多くの子供にとって留学への後押しとなっています。



スロベニア首都リュブリャナの旧市街



多様な交換留学生が集うリュブリャナ大学社会学部



マレーシアにある MARA 技術大学



MARA 技術大学での英語授業の様子

その2 大学運営全般に係る事業

◆ 教育学部附属幼稚園をサポート

附属幼稚園では、2018年度、群馬大学基金を活用した園庭整備等を実施しました。これは、国庫事業として行われた附属幼稚園舎の全面改築(新営)と同時に行われた事業で、幼稚園のシンボルツリーである「あずさ」から「あずさプロジェクト」と名付けられました。500件を越える方々のご賛同をいただき整備した園庭で、子どもたちは、思い切り遊び回ることができています。2019年度は、保護者用自転車置き場を、基金を活用して設置することができました。これで、「あずさプロジェクト」事業は完了となりました。ご賛同いただいた方々に改めて感謝申し上げますと共に、この素晴らしい環境を十分に活用した教育活動の推進を目指していきます。

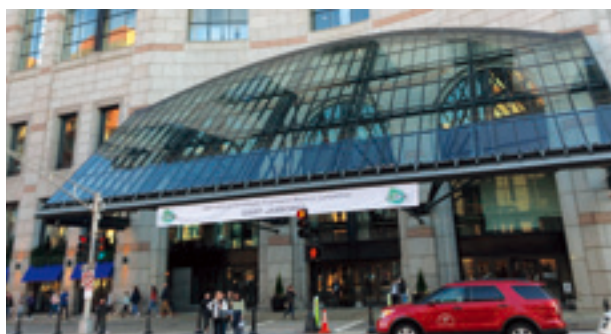


◆ 学生のグローバルなチャレンジをサポート

『群馬大学基金「駆ける、世界を!」グローバルチャレンジプログラム』と題しまして、学生個人あるいは学生グループが自らの成長のため企画した、独自性がありかつ個性的な海外での活動(交流あるいは研修(研究))に対して群馬大学基金により支援を行いました。群馬大学の国際展開を担う国際交流リーダーを育成していきます。

◆ 支援を受けた学生からの報告

合成生物学の世界大会「iGEM」への参加 理工学部総合理工学科化学・生物専門教育プログラム 4年 北みずき



大会会場 (Hynes Convention Center)



会場での渡航メンバー



銅メダルの賞状

私は他2名の学生とともに2019年10月30日から11月5日までボストンに滞在し、合成生物学の世界大会"iGEM"に参加しました。"iGEM"は「生物版ロボットコンテスト」とも呼ばれ、遺伝子組換え実験によって大腸菌などに狙った機能を持たせ、その機能や過程についてプレゼンテーションして競い合うものです。去年は世界中から来た優秀な学生6000人以上(353チーム)がこの大会に参加しました。

私は入学前からこの"iGEM"に参加したいと強く希望しており、日本には京都大学、東京工業大学、岐阜大学など幾つかの大学にも"iGEM"チームがありました。群馬大学にはチームがなかったため2017年の入学後に自身で設立しました。その後、メンバーを集めてから約2年かけて様々な下準備を進め、2019年春から秋にかけて実際に遺伝子組換え実験を行い、ボストンで開催された大会に臨みました。現地では英語でプレゼンテーションやポスターセッション、質疑応答を行いました。

この"iGEM"は取り組むべき活動が多岐にわたり、メインである実験以外にもクラウドファンディング等を利用した活動資金の調達や、英語でのプロジェクトwiki(プロジェクトの全てをまとめたウェブページ)の作成、地域貢献活動の一環として行った群馬県立前橋女子高等学校での遺伝子リテラシー出張講義など、様々な経験を通して大きく成長することができました。一方で活動中はリーダーという慣れない立場に対する戸惑いや、メンバーを上手くまとめられないことによる悩みなどもありました。

しかし、幸運なことに得難いメンバー、先輩、指導教員に恵まれ、そして大学関係者の方々に温かく応援していただいたことで、最終的には銅メダルを獲得することができました。

また、大会に参加する上で約180万円の活動費用が最大の障壁でしたが、その中で最も高額なチーム登録費(約56万円)の大部分を群馬大学基金グローバルチャレンジプログラムの奨学金で賄うことができ、感謝の限りです。

他のチームの方からも「初参加チームで大きな自己負担なく参加できることは非常に稀なので、本当に恵まれたね」とコメントされたり、「チーム登録費をはじめとする活動費用が壁となり参加を断念するチームも割と多い」という話を聞いたりしました。学生にとって、資金不足によって様々な活動を諦めなければならないのはとても辛いことなので、群馬大学基金のような仕組みは本当に有難いです。後輩たちも自分の可能性を伸ばすために、積極的にこのような機会に応募すべきだと思います。

今回の経験を糧に、今後ますます学業や研究に励んで参ります。

その3 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

本学では小型重粒子線治療装置の実証機として、2010年3月に重粒子線治療を開始しました。治療実績は順調に推移し、2019年度の実績では年間673名の患者さん、この10年間で累計4,048名の患者さんに対して治療を行いました。

この装置を用いて大学としての教育・研究を行うことは本装置の目的の一つでもあります。本学では、大学院に重粒子に関連する講座を設置し、国内外の学生を受入れて本装置を用いた教育を実践しています。また、重粒子線治療装置を導入すべく準備段階にある他施設からスタッフを受け入れて研修を行っています。研究面においても学内の研究者が本施設を利用するほか、国内外の研究機関と重粒子に関する研究交流も活発に行っています。

2019年度は、群馬大学基金を活用し、重粒子線治療装置を安定に稼働できるように制御計算機を最新のものに更新しました。最新のシステムを搭載した制御計算機が導入されたことにより、今後も重粒子線治療や装置を用いた教育・研究を安定して行うことが可能となりました。

また、2016年度からの継続事業として、重粒子線マイクロサージェリーの臨床応用に対する研究開発を行いました。

群馬大学基金へのご寄附のお願い

群馬大学基金は、皆様からの貴重な寄附金によって成り立っております。これまで、同窓生や在学生の保護者、企業・団体など多くの皆さまからご支援をいただき、心より感謝しております。

引き続き群馬大学基金に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<寄附のお申込み方法>

- ホームページからのお申込み
群馬大学基金ホームページの申込画面からお申込みいただけます。
群馬大学基金ホームページ(URL:<https://kikin.gunma-u.ac.jp/>)
- 寄附申込書からのお申込み
以下のお問い合わせ先までご連絡ください。
寄附申込書、振込用紙等をお送りさせていただきます。



<税法上の優遇措置>

- 個人の場合
税務署に確定申告していただくことにより、所得税の寄附金控除（所得控除制度）が受けられます。なお、「学生に対する修学支援に資する事業」及び「学生等への研究等支援に資する事業」への寄附に対しては、寄附額の一定割合の額が、所得税から直接控除できる制度（税額控除制度）の対象になりますので、どちらか一方の制度を選択できます。また、自治体の条例で、群馬大学への寄附金が控除対象として指定されている場合、併せて個人住民税の税額控除も受けられます。
- 法人の場合
寄附金の全額が損金算入できます。

<お問合せ先>

群馬大学総務部総務課広報係（基金事務室）
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL:027-220-7018
E-mail:kikin@jimu.gunma-u.ac.jp



税額控除の対象となる「学生等への研究等支援に資する事業」への寄附募集を開始します

本学では、群馬大学基金の事業に、「学生又は不安定な雇用状態にある研究者（いわゆるポスドク）に対するこれらの者が行う研究への助成又は研究者としての能力の向上のための事業」（学生等への研究等支援に資する事業）を新たに追加し、寄附募集を開始いたします。

皆様からのご支援は、次のような活動等に充てられる予定です。

- 学生又はポスドクが公募により選定されて参加する研究活動
- 学生又はポスドクが自らの研究成果を発表するための学会誌投稿、ホームページ作成、研究成果広報用パンフレット作成等
- 市民を対象とした研究成果広報活動などのアウトリーチ活動
- 研究者としての能力・資質の向上を図ることを目的とした、学生又はポスドクの国内外の研究室への派遣
- 分野の異なる様々な研究者等が集まる交流会開催



なお、個人からの「学生等への研究等支援に資する事業」への寄附については、「所得控除」のほか、「税額控除」も適用となり、確定申告の際に、寄附者様において、いずれか一方の制度をご選択いただけます。

未来を担う若手研究者の育成に温かいご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



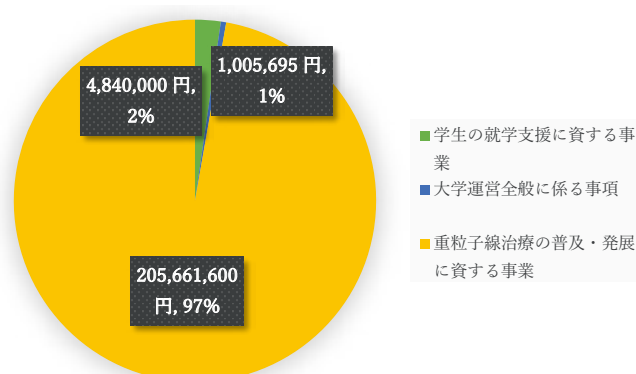
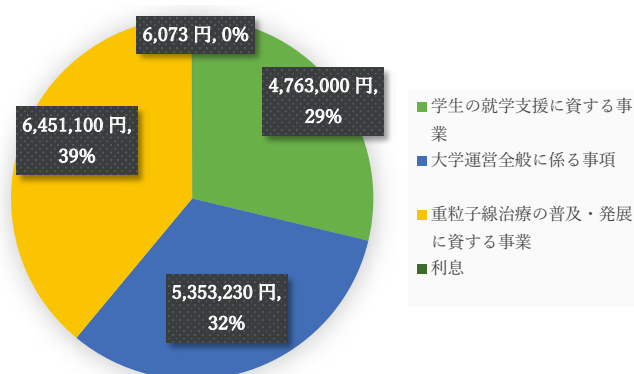
《 2019年群馬大学基金収入支出決算書 》

事 項	積 算 内 訳	計 画 額	決 算 額
1. 収入額		589,716,592	606,289,995
学生の就学支援に資する事業		24,373,176	29,136,176
2018年度からの繰越額		24,373,176	24,373,176
今年度受入済額			4,763,000
大学運営全般に係る事項		45,881,919	51,235,149
2018年度からの繰越額		45,881,919	45,881,919
今年度受入済額			5,353,230
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		519,461,497	525,912,597
2018年度からの繰越額		519,461,497	519,461,497
今年度受入済額			6,451,100
利息等		0	6,073
2. 支出額		214,733,372	211,507,295
学生の就学支援に資する事業		4,900,000	4,840,000
● 学生の海外留学派遣 「留学(派遣)経費補助事業」	交換留学 3人 短期研修 28人	2,500,000	2,440,000
● 奨学金の給付 「群馬大学基金における経済的困窮学生 に対する奨学金給付事業」	前期(6人)、後期(6人)	2,400,000	2,400,000
大学運営全般に係る事項		3,833,372	1,005,695
● グローバルチャレンジプログラム	学生の海外留学派遣 1件(1グループ) ※2件は2020年度に延期	1,500,000	500,000
● 附属幼稚園教育環境整備費	保護者用自転車置場を設置 ※基金財源の安定化のため全学 運営費(広報室経費)で支出	1,442,172	505,695
● 基金事務費(通信費等)		891,200	0
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		206,000,000	205,661,600
● 重粒子線治療研究事業	マイクロサージェリー基礎研究等	6,000,000	6,011,600
● 重粒子線治療研究事業	加速器制御系計算機, 照射装置制御計算機	200,000,000	199,650,000
3. 翌期へ繰越額		374,983,220	394,782,700
学生の就学支援に資する事業		19,473,176	24,296,176
大学運営全般に係る事項	(利息含む)	42,048,547	50,235,527
重粒子線治療の普及・発展に資する事業		313,461,497	320,250,997

<収支> 2019年度の寄附額及び支出額の内訳は以下のとおりです。

<寄附額> (16,573,403円)

<支出額> (211,507,295円)

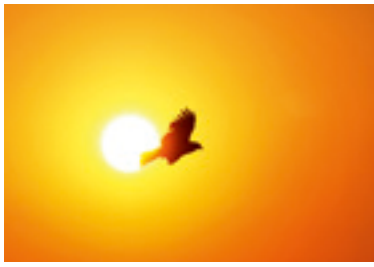


群馬大学基金に寄附をいただいた主な企業様

<p>一般財団法人 同愛会 様</p>  <p>群大生の皆さんの修学活動を支援します。</p>	<p>株式会社キンセイ産業 様</p>  <p>大変な状況下ではありますが負けずに勉学に励んでください。</p>	<p>株式会社群電 様</p> 	<p>上武印刷株式会社 様</p>  <p>群馬大学生として誇りを持って、それぞれの場でご活躍ください。</p>
<p>有限会社ハウスヨシダ 様</p>  <p>笑顔で頑張ってください。</p>	<p>株式会社シオ 様</p> 	<p>理研鍛造株式会社 様</p>  <p>新しい発想とチャレンジ精神で未来を切り拓くことを期待します。</p>	<p>システムセイコー株式会社 様</p>  <p>一流の技術を発揮し社会に貢献しよう！</p>
<p>株式会社チノ 様</p>  <p>その夢、叶える場所が身近にあります。私たちと一緒に育みましょう！</p>	<p>株式会社アイ・ディー・エー 様</p>  <p>笑顔で最新の技術をもって社会に貢献しよう。</p>	<p>植木プラスチック株式会社 様</p>  <p>弊社は真空圧空成形の技術の蓄積により安定成長してきました。この業界の日本一を目指し研究開発を続けています。将来を担う学生の皆さん！是非ものづくりの現場を見学に来てください。</p>	<p>王子製鉄株式会社 様</p>  <p>就職の参考に是非、一度工場を見学してみてください。</p>
<p>技研コンサル株式会社 様</p>  <p>これからの地域社会を支える社会基盤を皆さんとともに。</p>	<p>群馬トヨペット株式会社 様</p>  <p>群馬県を一緒に盛り上げていきましょう！</p>	<p>東京パーツ工業株式会社 様</p>  <p>当社は、車載関連部品の製造会社です。生産は、海外工場が主体となっており、海外で働くことに興味のある方も是非一度見学してみてください。</p>	<p>株式会社原田 様</p>  <p>将来の日本を担う、優秀な人材になってください。</p>
<p>バンドー化学株式会社 様</p>  <p>学生の皆さんが活躍される未来を期待します。</p>	<p>星野総合商事株式会社 様</p>  <p>明るく希望に溢れる世界の創造を期待します。</p>	<p>株式会社ユタカ製作所 様</p>  <p>充実した学生生活を送れるよう応援しています。</p>	<p>※ 2019年4月～2020年3月に寄附をいただいた企業様を掲載しております。</p>

- | | | |
|------------------|----------------------|--------------------------------|
| ■ 井上熱処理工業株式会社 様 | ■ 株式会社キンケン 様 | ■ 株式会社小島鐵工所 様 |
| ■ 株式会社協正金型製作所 様 | ■ 三豊化成株式会社 様 | ■ 株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション 様 |
| ■ 株式会社登利平 様 | ■ 塚本建設株式会社 様 | ■ 株式会社ジェムコ 様 |
| ■ 株式会社日本キャンパック 様 | ■ 池下工業株式会社 様 | ■ セコム上信越株式会社 様 |
| ■ 沼田資源株式会社 様 | ■ 有限会社柏屋 様 | ■ 株式会社総合 PR 様 |
| ■ 株式会社ヨーユーラボ 様 | ■ 菊地歯車株式会社 様 | ■ 株式会社野村建設工業 様 |
| ■ 株式会社ヨシカワ 様 | ■ 群馬県警察学校初任科第93期生会 様 | ■ 株式会社矢野 様 |
| ■ 足利ガス株式会社 様 | ■ 小池化学株式会社赤城工場 様 | ■ 株式会社吉田鐵工所 様 |
| ■ 鶴川興業株式会社 様 | | |

匿名の法人・団体 2団体様



📁 フォトギャラリー

学生広報大使 兼 桐生写真部 **大澤郁弥**さん撮影
桐生写真部アカウント

https://twitter.com/gust_photo

https://www.instagram.com/gupt_kiryu.gallery/

📖 バックナンバー

2020 Autumn



2020 Winter



2019 Summer



◆ これ以前のバックナンバーはコチラ
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/guday>

✍️ 編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見えない冬ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨春の時点では「クリスマスまでには大学に帰れるだろう」と思っていた在学生のみなさんも少なくなかったのではないかとと思いますが、依然として感染拡大は猛威を振っています。

前回に引き続き、在学生の学生広報大使のご協力のもと、「新型コロナウイルス感染症に立ち向かおう！」というコンセプトで群馬大学広報紙『GU'DAY』を制作しました。学生も感染拡大による社会・経済不安に立ち向かっています。先の見えない時代を力強く生きていく群馬大学生の姿を少しでもお届けできたことを祈っています。

冷え込む季節です。心身ともにお疲れの方も多いかと存じます。皆様どうぞご自愛ください。

[by 広報K]

📋 読者アンケート

2021年6月30日(水)までにご意見(ご感想)をいただいた方の中から抽選で20名様に、群馬大学オリジナルグッズより「星野富弘氏デザインのクリアファイル」をプレゼントいたします。

※ プレゼントをご希望の場合は、メール本文に必ず、住所・氏名をご記入ください。

◆ 広報誌に対するご意見、ご感想はコチラ

E-mail : s-public@jimu.gunma-u.ac.jp



群馬大学広報誌 [グッデイ]

GU'DAY

- 発行元：国立大学法人群馬大学 広報本部
- 発行日：2021年2月
- TEL：027-220-7010,7011
- E-mail：s-public@jimu.gunma-u.ac.jp
- URL：<https://www.gunma-u.ac.jp/>

Copyright(C) 2021 Gunma University All rights Reserved

